

第33回 通常総会

議 題

2024年 4月18日(木)

乳業会館 3階

全国牛乳容器環境協議会

全国牛乳容器環境協議会 第33回 通常総会 次第

2024年 4月18日(木)

15:00 ～ 16:50

乳業会館 3階 C会議室
(zoomによるオンライン併用)

1. 開会
2. 出席人員報告
3. 会長挨拶
4. 議長選出
5. 議事録署名人選出
6. 議事
 - 1) 審議事項
 - [第1号議案] 2023年度-事業報告
 - [第2号議案] 2023年度-収支決算 及び 剰余金処分 (案)
 - [第3号議案] 2024年度-事業計画 (案) 及び 予算 (案)
 - 2) 報告事項
 - [報告事項1] 2024年度-容環協役員一覧
 - [報告事項2] 2024年度-理事会、四半期運営委員会、次回-通常総会 日程
 - [報告事項3] 飲料用 紙容器リサイクル協議会 及び 3R推進団体連絡会 活動報告
https://www.3r-suishin.jp/PDF/2022Report/Followup_Report2022_all.pdf より抜粋
7. 閉会

＜ 休 憩 ＞

8. 来賓挨拶、記者説明会

★添付資料

1. 紙パックリサイクル年次報告書 (2024年 1月発行)
https://www.yokankyo.jp/img/publish/2024_report.pdf
2. 2022年概要版 飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査
<https://www.yokankyo.jp/img/cat02/2023.pdf>

※ 閉会（議事終了）後、休憩をはさみ来賓挨拶 及び 記者説明会を実施します。
その後、別会場にて名刺交換会を実施します。

以 上

2023年度-事業活動報告

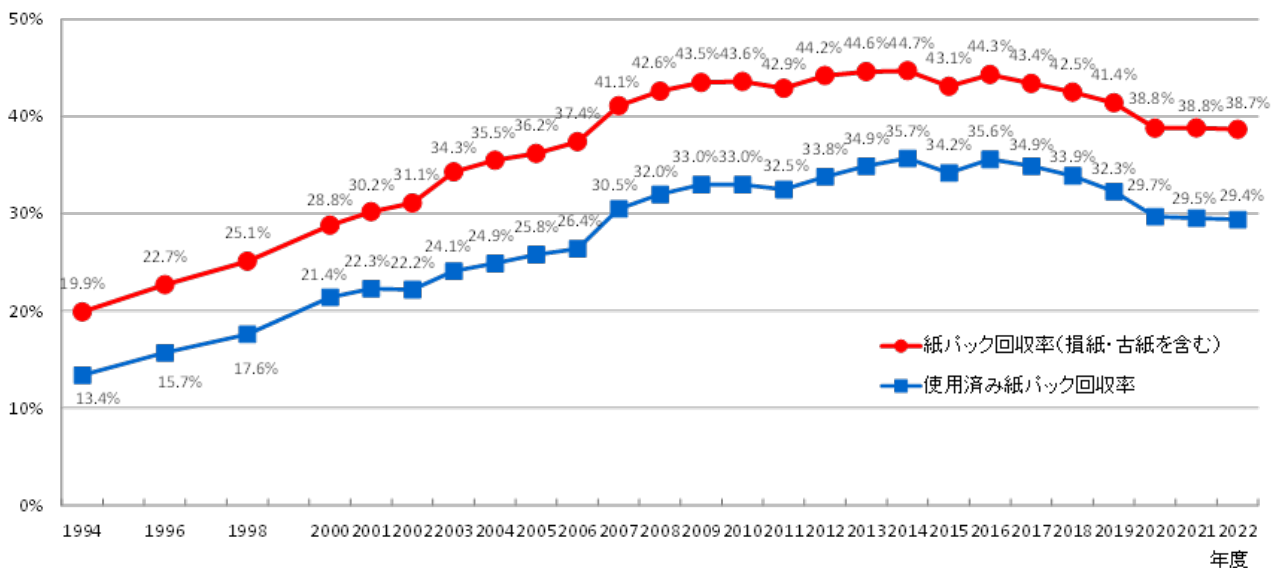
概況

2022年度の回収率は前年度とほぼ同レベルの**38.7%**でした。ここ数年の低下傾向には歯止めがかかったものの、「回収率50%以上」には及ばない状況となりました。

回収率の分母となる原紙使用量や出荷量が減少した反面、新型コロナウイルス感染症の影響によりスーパーマーケットや生活協同組合の店頭回収ボックスが閉鎖されたことや、市区町村登録団体による集団回収の実施回数や団体数が減少したことなどにより分子となる回収量も減少しています。

なお、雑誌の間に紙パックが挟まれた状態で回収されているなど、「紙パック」としてではなくそれ以外の古紙として回収されている中にも紙パックが混入しているケースがあり、それらの紙パックの一部は計量されないままリサイクルされています。

こうした計量されずにリサイクルされている紙パックの推計量を含めると、紙パック回収率は**39.6%**（使用済み紙パック回収率は30.5%）になります。



2021年よりスタートした容環協の中期計画「プラン2025」では、回収率の低下傾向に歯止めをかけ、回収率50%を達成するために、それまでの活動をゼロベースで見直し、5本柱からなる行動計画として整理しています。

2023年5月には、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に位置付けられ、これまで制限を受けていた対外的な会議やイベントなども緩和されてきています。

今後もプラン2025の5つの行動計画を基本に、各種事業活動に一層注力するとともに、新規の活動についても引き続き模索・試行しつつ、2025年度の目標達成に向け取り組んでいきます。

飲料用紙パックリサイクル行動計画 プラン2025

I 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

目的：ステークホルダーの意見を聞くことなどを通し、正しく実態を把握する

II 回収率向上のための啓発

目的：市民・企業等へ紙パックの特性を正しく伝え、リサイクル行動へつなげる

III 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

目的：日本全国どこでも誰でもが紙パックをリサイクルできるルートの整備を支援する

IV 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

目的：持続可能な回収力向上のため、子どもたちの紙パックへの理解を深める

V 活動への理解促進、活動の公表と評価

目的：活動をレビューするとともに、公表しステークホルダーの共感を得る

2023年度の主な進捗

I：紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

コロナ禍により開催頻度が低下していたステークホルダーとの意見交換会や各種会議への参加・現地訪問について順次再開しました。

2月にステークホルダー意見交換会を開催するとともに、回収率向上のキーとなる古紙問屋・再生紙メーカーとの意見交換会についても実施しました。

2019年の欧州以来、4年振りに海外視察（北米）を実施しました。

II：回収率向上のための啓発

できるだけ多くの方の目に触れるよう、数十万・数百万人を対象とした大規模なSNS発信や自治体広告などに力を入れました。

飲食店における紙パック回収実証実験についても範囲を拡大して取り組みました。

III：紙パックの回収・再生インフラの整備支援

紙パック回収マップについては、千葉県の一部市町村をモデルケースとして作成に取り組んでいますが、回収拠点の情報公開上の課題があり現在対応を検討中です。

IV：次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

川崎市の市民団体・川崎市環境局と協力し市内の出前授業を実施しました。

リサイクル講習会を再開するとともに、啓発ツールの改訂・新規作成を実施しました。

今年度も「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」に協賛しました。

V：活動への理解促進、活動の公表と評価

容環協の活動を取り纏めた年次報告書2024は、1月に完成し配布しています。

また、今年度も紙パックリサイクル行動に関するアンケート調査を実施（西日本地区を追加調査）し、市民の意識や行動の変化をモニタリングしました。

I. プラン2025の活動

1. 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

1.1 基本調査（総務）

11月に今年度の基本調査（2022年度実績）速報が報告され、紙パック回収率は38.7%（前年度比-0.1pt）、使用済み紙パックの回収率は29.4%（前年度比-0.1pt）の結果を受け、11月10日の総務委員会開催前に報告会を実施しました。

その後、容器包装 3 R 八団体にて、以下の通り国および経団連へ結果報告および記者説明会を実施しました。

11月27日 農林水産省 大臣官房 新産業・食品産業部
 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

11月28日 経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課
環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室

12月 5日 経済産業省 製造産業局 素材産業課

12月14日 経団連 容器包装リサイクル法に関する懇談会（産業界より約120名）

12月15日 経団連 記者説明会（マスコミ約40社）

回収率調査結果については、3 R推進団体連絡会八団体共同で「容器包装3 R推進のための自主行動計画2025 2022年度フォローアップ報告」として冊子にまとめ、国および経団連への報告と記者発表を行いました。

紙パックリサイクルについては容環協でも独自に報告書（基本調査報告書）をまとめ、関係者に配布しています。



経団連 容器包装リサイクル法に関する懇談会(12/14)

1.2 意見交換会（総務）

ステークホルダーとの意見交換会は2024年2月19日にWEB開催し、容環協の活動報告に加え、ステークホルダーと意見交換を行いました。

今年度もWEB開催となりましたが、遠方の方々も多数参加いただきました。

再生紙メーカーとの意見交換会も計画しています。



意見交換会発信のようす(2024/2/19)

1.3 地域会議（総務）

紙パック回収における地域特有の課題について情報交換を行う場として地域会議を実施しています。

2023年度は茨城県での開催を計画しましたが、水戸市をはじめ主要な市町村とのスケジュール調整がつかず、ヒアリングとデータ収集に留まりました。

ヒアリングしたデータを活用するために、2月19日に開催のステークホルダー意見交換会では、ひたちなか市と阿見町に事例発表を実施していただきました。

2024年度は神奈川県を候補地として調整しています。

1.4 再生紙メーカーなどバリューチェーンとの意見交換（総務）

再生紙メーカーとの意見交換会は、従来は再生紙工場が多く立地する静岡県富士市で夏季に実施していましたが、コロナ禍もあり現在は個別の会社ごとの情報交換に留まっています。WEB開催や取材や見学を兼ね少人数で訪問するなどの工夫をしながら、今後も定期的・継続的な情報交換を実施します。

5月22日 日誠産業
7月26日 コアレックス三栄（兼工場見学）
8月 2日 山田洋治商店
10月10日 クレスコ
10月30日 北越パッケージ関東工場
（兼工場見学）
11月 4日 大和板紙（柏原市民総合フェス）
11月17日 日誠産業
11月29日 王子エコマテリアル
1月10日 TOPPAN、大本紙料
2月15日 日本テトラパック



コアレックス三栄訪問(2023年7/26)

1.5 海外視察（北米）の実施

容環協では2003年に第1回の北米視察を行って以降、森林管理のLCAデータの収集や、紙パックの原紙工場の工程視察を目的として、定期的に海外視察（北米、北欧）を実施しています。

今回は2019年の欧州視察以来、4年ぶり（北米は7年ぶり）の視察となりました。

コロナ禍により一時は実施が危ぶまれましたが、関係各所の尽力により8名の視察団により9/11-16の日程で訪米することができました。

詳細については、容環協会員ページに報告書をアップしているので参照ください。



NDP Longview 工場

2. 回収率向上のための啓発活動

2.1 イベントへの出展や参加、支援（イベント）

1) エコプロ2023

12月6日～8日のエコプロ2023に出展しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、今年度より対面説明を復活させました。

ブース面積を拡大しスタンプラリーなどの新たな企画を行ったところ、容環協ブース来場者数、エコプロ来場者数に対する容環協ブース来場者の比率ともに大幅に増加しました。



エコプロ2023 容環協ブース

エコプロ 容環協ブース来場者数

	ワーク ショップ	手すき はがき づくり	パネル 展示	容環協 来場者 延べ人数	エコプロ 来場者数	容環協 来場者 比率(%)	備考
2016	551	487	867	1,905	169,093	1.13	
2017	552	477	685	1,714	160,091	1.07	平日開催時間が1時間短縮し、10-17時に
2018	498	466	860	1,824	162,217	1.12	
2019	415	489	814	1,718	147,653	1.16	
2020			728	728	10,853	6.71	オンライン開催
2021			1,135	1,135	54,885	2.07	
2022			1,707	1,707	61,541	2.77	
2023			1,637	2,500	66,826	3.74	パネル=スタンプラリー参加者数

2) その他の展示会への支援（イベント・支部組織）

その他の容環協出展イベントや支部組織委員会対応の地域イベントも、再開されており、**2023年度は40か所以上の地域イベント等への支援**を行っています。



ひたちなか市、横浜市に出展の会員企業ブース

今後も積極的に展示パネルの貸与や啓発ツールの提供・支援を実施していきます。

2.2 デジタルメディアの活用（イベント・広報）

1) 容環協ホームページ（広報）

昨年、容環協ホームページをPCとスマートフォンの両方に対応した「レスポンシブデザイン」に仕様変更して以降、アクセス数が増加しています。

今回、**トップページに対象層ごとの入口**を設けて、親しみやすい形に改訂しました。



2) 動画コンテンツの活用（イベント・広報）

各種イベントで使用している啓発パネルやDVD、冊子類の見直しを順次実施しています。また、容環協の活動紹介ビデオも作成し、エコプロ2023にて放映しました。

今後も、イベント等の特性に合わせたパネル・動画・冊子を作成し、効果的な啓発活動に努めていきます。



新しくなった啓発パネル（6枚）



2023 年度に作成し、エコプロ 2023 で放映した動画の一部（キャプション）

3) インターネット記事の配信（広報）

2022年度から本格的に開始したインターネットメディアによる記事発信を活用しています。

SNS 配信サイトを通じ、これまで約3か月ごとに計8回の配信を実施していますが、累計200万件以上のアクセスがあり、ホームページへの誘導効果も高いことが判明しました。「つぶやき機能」による閲覧者も見られ、大規模かつ有効な啓発手段の一つであることがわかりました。今後も内容を検討しながら活用していきます。



2.3 市町村の指定ごみ袋への広告掲載（広報）

2019年度より市町村の指定ごみ袋への啓発広告掲載を実施しています。

可燃ごみ袋に「紙パックは捨てずにリサイクル」というメッセージを掲載し、紙パックリサイクルに対する啓発を広く行うとともに、廃棄されることを防止する効果も狙っています。

2023年度は新たに逗子市、泉佐野市のごみ袋にも採用となり、**約100万人（広告掲載5市の人口合計）**に対し啓発を実施することができました。



今年度新規採用の逗子市のデザイン(左) 八王子市のごみ袋(中) 羽村市のデザイン(右)

2.4 飲食店における紙パック回収実証実験(支部組織)

2022年度より日本サステナブル・レストラン協会（SRA-J）と連携し、これまであまり対応が進んでいなかったレストランをはじめとした**業務用領域での紙パック回収への取り組み**を継続しています。

今年度は対象エリアを拡大し関東（東京、厚木、茅ヶ崎）、中部（名古屋）、関西（東大阪、芦屋、西宮、尼崎他）の商業施設やレストランで実証実験、ウェビナーの開催、行政や商工会への働きかけ、イベント協賛を行っています。

11月にはSRA-Jが食の持続可能性のフレームワークをもとに、加盟レストランのサステナビリティを評価・表彰する「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2023」に協賛し、容環協の冠賞として「BESTリサイクル賞」を授与しました。

受賞した厚木エリアでは、店舗自らがリサイクラーへ持ち込む行動力、リサイクラーと協力したウェビナー登壇、市長や市議会議員への働きかけを通じた行政へのアプローチ、イベントでの厚木市ブースへの回収ボックス設置などを評価しました。

今後も、業務用領域での紙パック回収について積極的な取り組みを進めます。



茅ヶ崎エリアの夏祭回収イベント



厚木エリアの市長訪問



BEST リサイクル賞表彰式

3. 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

3.1 回収場所の情報提供（総務）

地域による、紙パック回収状況の差が課題となっていますが、地域ごとの回収のインフラの情報が十分に整理されていないことから、2021年度より継続して情報の収集・整理を進めており、適切な対策を検討していきます。

1) 市区町村別紙パック回収区分の見える化（総務）

自治体ごとの行政回収区分調査を、基本調査を依頼している㈱ダイナックス都市環境研究所に委託しました。今後は、環境省のデータとの比較や行政回収・店頭回収・集団回収の区分の整理など、**段階的なデータ収集と見える化**を目指します。

2) 古紙問屋・再生紙メーカーリストの作成（総務）

紙パックは新聞・雑誌等と異なる区分で収集をしていることから、紙パックを取り扱う古紙問屋は限られています。最近では市民や学校・団体等が分別排出・収集を検討したところ回収業者が見つからずリサイクルを断念する事例が発生しています。

特に近年のコロナ禍や世界紛争、円安等に起因するコスト高は古紙問屋の回収意欲低下の原因となり、紙パック回収エリアが脆弱化し空白地域も発生しています。

これを受け、最新の実態を把握するため、古紙問屋の紙パック回収意向調査を㈱ダイナックス都市環境研究所に委託し「1)の区市町村の実態調査」と合わせ地域による回収状況の違いを調査しました。これらデータの有効活用に努めていきます。

3.2 回収力の弱い地域のルート構築支援（総務）

紙パックの最も大きな回収ルートは店頭回収です。

消費者に回収拠点情報をマップ形式で提供することで回収率向上を狙いました。

全国の市町村や、小売店、日本チェーンストア協会等に回収拠点のデータ提供を求めましたが、資源物の持ち去りや区域外からの持ち込みを避けたいなどの理由から、多くの組織からデータ提供の要請を断られています。

現在、千葉県の一部エリアに絞ったモデルケースの作成とともに、非公開のデータベースを作成し事業活動の参考にできないかを検討しています。

3.3 紙パック回収ボックスの提供

2022年度までに**累計25,000個以上**の回収ボックスを無償提供しており、今年度も引き続き様々な回収拠点に提供していきます。

回収ボックスは紙パックの再生パルプから作られた段ボール（ミルダン）で出来ていますが、屋外で使いたいとの要望もあるため、紙パックのラミネートプラを再利用した樹脂製の回収ボックス作製についても検討しました。



回収ボックスと申込書（HPに掲載）

4. 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

4.1 牛乳パックリサイクル出前授業（イベント）

資源循環の大切さを理解していただくため、学乳パックのリサイクルの普及促進のための活動を行っています。2023年度は川崎市の市民団体（3R推進プロジェクト、グリーンコンシューマーかわさき）と川崎市環境局（減量推進課、地球環境推進室）の三者で協力し、**川崎市内の小中学校の出前授業を中心に実施**しています。

資源循環だけでなくSDGsや地球温暖化などの環境問題など広い視点で話し合いながら、社会課題に対し自分たちがやれることは何かを考えるというスタイルで行っています。



東門前小の出前授業の様子

- 9月 4日 川崎市立向丘小学校
5年生3クラス 120名
- 9月25日 川崎市立東門前小学校
5年生4クラス 150名
- 1月19日 横浜市立豊岡小学校
4年生1クラス 32名

4.2 リサイクル講習会（イベント）

出前授業と同様、市町村の公民館などが主催する児童向けイベントや市民講習会にも対応しています。

児童向けイベントでは牛乳パック手開き体験や紙すき、工作、ぬり絵などを通じ楽しみながら紙パックリサイクルについて学んでもらっています。

- 6月17日 ちよだ環境まつり(東京都千代田区)
- 7月28日 エコreゾートワークショップ(夏版)
(武蔵野市)
- 8月 5日 こどもエコサマーウィーク2023
(東京都中央区)
- 8月19日 「紙パックリサイクルでできるSDGsの
課題解決への貢献」(狛江市)
- 10月14日 野田市リサイクルフェア(野田市)
- 11月 4日 第13回市民総合フェスティバル／第29回環境フェア(柏原市)
- 11月19日 第16回 むさしの環境フェスタ(武蔵野市)
- 3月24日 こどもエコクラブ全国フェスティバル(渋谷区)
- 3月24-25日 2023年 チアファミリーフェスタ(柏原市) ※雨天中止



4.3 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール(イベント)

第23回「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」に協賛しました。

紙パック工作そのものは回収率向上に直結しませんが、子どもたちがものづくりの楽しさに触れながら、「環境」への第一歩である『ものを大切にする』ことを体験し、森林管理、食と健康、容器の役割などを学びつつリサイクル・資源循環の重要性に気づきを与えるという目的で協賛しています。

単に工作技術を競うコンクールではなく、未来を担う子供たちの環境問題への気づきや理解に貢献することが目的であることがより明確になるよう「牛乳パックでちきゅうにやさしい工作をしよう!!」のキャッチコピーを付加し、国内の全小学校(19,000校)に案内を送付し、今年も3,560点の応募が寄せられました。



年 度	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017
応募数	3560	4127	2,338	1,670	2,316	2,353	2,610

- 1) 一次審査 10月13日(木): T K P市ヶ谷 入選30作品を選出
- 2) 二次審査 11月 8日(火): ㈱スピン会議室 入賞7作品を決定
- 3) 12月6~8日に開催のエコプロ2023容環協ブース内で入賞作品を展示
- 4) 表彰式: 12月23日(土): コンファレンススクエア エムプラス (丸の内)



本審査のようす(2023/11/8)



表彰式(2023/12/23)



最優秀賞「GO! GO! ミルクカー」



容環協賞「テッセラの牛 -モザイクの彩り-」

4.4 啓発ツールの作成と改訂（広報・イベント）

昨年改訂した「地球にやさしく紙パックのリサイクル」の大人向け冊子を作成しました。

また、内容がやや古くなっていた「パックン探検隊DVD」や「ぬり絵うちわ」、「ウェットティッシュ」、「ポケットティッシュ」などもそれぞれ改訂・増刷を行い、使用用途に応じた配布を行っています。

中でもノート型啓発冊子「紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK」はエコプロ2023や地域イベントでも大人気でした。



大人版啓発冊子(左)とノート型啓発冊子(右)

5. 活動への理解促進、活動の公表と評価

5.1 年次報告書等による容環協活動の公表（広報）

容環協の一年間の活動を取りまとめた「**年次報告書2024**」が2024年1月に完成し、関係者に配布しています（容環協ホームページでも電子版を公開しました）。

また、回収率の基本調査結果については、1月より概要版を配布していますが、**3月に基本調査報告書本冊が完成**しました。



年次報告書 2024



基本調査概要版(2022 年度実績)

5.2 容環協活動の評価（総務）

容環協活動が意図した方向に進んでいることを確認するための指標が必要との考えから、プラン2025の5つの柱について**活動のKPIを設定し、定期的な評価を実施**しています。

ただし「柱Ⅰ」および「柱Ⅴ」は定量化が困難なため、当面は定性的評価に留めることとしました。

柱Ⅰ：紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

柱Ⅱ：回収率向上のための啓発 ⇒ 消費者アンケートの結果をもとにした市民の意識や行動の変化

柱Ⅲ：紙パックの回収・再生インフラの整備支援 ⇒ 回収インフラが未整備の自治体数を減らす

柱Ⅳ：次世代を担う子どもたちの環境マインド向上 ⇒ 学乳パックの回収率を評価対象とする

柱Ⅴ：活動への理解促進、活動の公表と評価

【2023年度容環協活動の評価】

紙パックリサイクルの現状把握

⇒ 紙パック回収率：回収率50%を目指す

「2022年度の紙パック回収率 38.7% (−0.1pt)」

1. ステークホルダーとのコミュニケーション

⇒ 定性的な評価

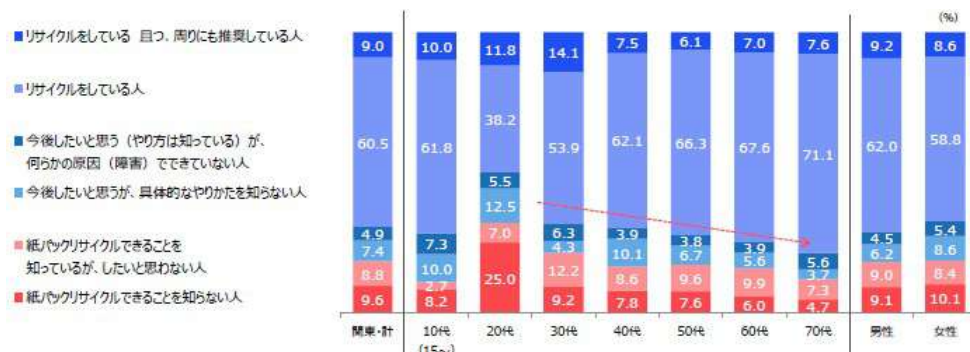
「各種出展イベント、出前授業、講習会、見学会の実施継続」

2. 回収率向上のための啓発

⇒ 消費者アンケートの結果をもとにした市民の意識や行動の変化

紙パックリサイクル行動に関するアンケート調査結果で評価。

「紙パックリサイクルをしている人＝全体の 69.5% (−1.2pt)」



3. 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

⇒ 回収インフラが未整備の自治体数を減らす

回収インフラ未整備：市町村回収、集団回収ともに実施していない自治体。

「回収インフラ未整備の自治体 10.00% (0.99pt改善)」

※調査数 1,276市区町村のうち 127市区町村

※評価方法を一部変更している

4. 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

⇒ 学乳パックの回収率を評価対象とする

「2022年度学乳パック回収率 43.7% (1.7pt向上)」

5. 活動への理解促進、活動の公表と評価

⇒ 定性的な評価

「活動報告書2024発行」

「HPの改訂によるアクセス数向上 (PV数増加 107,303 ⇒ 111,789)」

「イベントやSNS発信などによる啓発」

Ⅱ. その他の活動

1. 3 R推進団体連絡会および飲料用紙容器リサイクル協議会（飲紙協）

飲紙協は容環協の上部組織にあたり、容器包装 3 R を推進する 8 素材の 3 R を推進している組織とともに 3 R 推進団体連絡会を構成し活動しています。

飲紙協が国および経団連に報告しているフォローアップ報告の内容は、経団連の「循環型社会形成自主行動計画」の一部にあたり、3 R のうちリデュースについては日本乳業協会の紙パックリデュースワーキングの取り組みが、リサイクルについては容環協の取り組みがベースとなっています（リユースは該当なし）。

なお、紙パック総量のうち牛乳パックが全体の 3 分の 2 を占めることから、容環協が飲紙協の事務局団体となっており、現在、容環協会長が理事長に、容環協常務理事が専務理事を務めています。

3 R 推進団体連絡会－飲紙協－容環協の関係

● 3 R 推進団体連絡会（設立：2005 年 12 月）

- 1) ガラスびん 3 R 促進協議会
- 2) P E T ボトルリサイクル推進協議会
- 3) 紙製容器包装リサイクル推進協議会
- 4) プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- 5) スチール缶リサイクル協会
- 6) アルミ缶リサイクル協会
- 7) 飲料用紙容器リサイクル協議会（飲紙協）
- 8) 段ボールリサイクル協議会

● 飲料用紙容器リサイクル協議会(1997 年 3 月)

- 1) 全国牛乳容器環境協議会(1992 年 8 月)
- 2) 一般社団法人 全国清涼飲料連合会
- 3) 一般社団法人 日本果汁協会
- 4) 一般社団法人 全国発酵乳酸菌飲料協会
- 5) 酒類紙製容器包装リサイクル連絡会
- 6) 印刷工業会液体カートン部会

2. 3 R 推進団体連絡会の行動計画の内容と2023年度の進捗・実績について

現在の自主行動計画「自主行動計画2025」は2021年に策定された「第4次計画」にあたり、毎月開催される「3 R 推進団体連絡会運営会議」により計画の推進と進捗確認を実施しています。

2.1 事業者による 3 R 推進に向けた「自主行動計画2025」

- 1) リデュースの取り組み
- 2) リユースの取り組み
- 3) リサイクルの取り組み
- 4) 普及啓発の推進等
 - ① 容器包装の 3 R に関する普及啓発・情報発信
 - ② その他環境保全や海洋プラスチックごみ問題に関する普及活動等

2.2 主体間の連携に資するための行動計画

【各主体との交流・意見交換】

- 1) 市民・自治体との意見交換会「容器包装 3 R 交流セミナー」
 - ① 札幌市（ 7/13 ） ② 松江市（ 11/8 ） ③ 宇都宮市（ 2/21 ）
- 2) 3 R 市民リーダー育成プログラム
NP0法人持続可能な社会をつくる元気ネットに委託
 - ① 自治体意見交換会：乳業会館（ 7/21 ）、白井市（ 9/28 ）、文京区（ 12/18 ）
 - ② 市民リーダースキルアップ研修：乳業会館（ 2/29 ）
 - ③ 容器包装 3 R フォーラム：港区（第18回： 2/2 ）

【PR・啓発事業、調査・研究事業】

- 1) 展示会への出展・イベントへの協力
 - ① (公社)全国都市清掃会議 (熊本市 10/26)
 - ② 3R推進 全国大会 (秋田市 10/25)
 - ③ エコプロ2023における8団体共同ブース、3Rクイズ (12/6-8)
- 2) 情報冊子の改訂・配布
 - ① 3Rパンフ「未来へのつながる3R社会を目指して」
 - ② 3Rパンフ「容器包装の3R リサイクルの基本 (7月改訂)」
- 3) 消費者意識調査の実施
- 4) ホームページの公開等 <https://www.3r-suishin.jp/>

【フォローアップ報告（環境省、経産省、農水省および経団連への報告と公表）】

- 1) 農 水 省：食品ロス・リサイクル対策室 (11/27)
- 2) 経済産業省：資源循環経済課 (11/28)
- 3) 環 境 省：リサイクル推進室 (11/28)
- 4) 経済産業省：素材産業課 (12/ 5)
- 5) 経 団 連：容リ懇談会 (12/14)
- 6) 公 表：記者説明会 (12/15)

【2023年度飲紙協の担当事業について】

- 1) 3R推進団体連絡会 副幹事、予算管理担当。
- 2) 広報事業 主幹事（パンフレットの作成、啓発冊子の管理など）
- 3) 市民リーダー育成事業 副幹事

3. リデュースの取り組み（日本乳業協会 紙パックリデュースワーキング）



紙パックのリデュースは、1987年から2002年の間に既に約5%の軽量化を実現しており、1000ml 容器については品質への影響が危惧されることから、さらなる軽量化は難しいと判断し、「500ml の牛乳パック」に限定した軽量化に取り組んでいます。(※)

中身飲料の品質に影響を与えず、運搬時にも耐えられる強度で安定した製造ができる紙パックとして、2011年9月から軽量原紙の使用を進めており、2022年度は2005年度比で、2.7%の軽量化（原紙仕様レベル）となりました。

2019年度から2020年度にかけてこのカテゴリーの商品が他のものに移行したことが影響し、一旦は数値を下げたもののその後坪量の小さな軽量原紙を使用するメーカーが増えたことによりリデュース率が増加したと考えられます。

※ 近年1,000mlのさらなる軽量化カートンが開発されたことから、これによるリデュース効果の検証も必要になると考えられる

4. その他、容環協と関連の深い主な団体

4.1 紙製容器包装リサイクル推進協議会（紙推進協）

商品の容器や包装で主として紙製のもので、段ボールや飲料用紙容器以外のものを取り扱う団体。3R推進団体連絡会の構成団体の一つ。

日本乳業協会も会員となっており理事を務めています。

紙推進協では定期的な組成分析調査を行っており、雑がみ中に混入する紙パック量のデータ取得の目的で容環協も組成分析調査に定期的に参加しています。

今年度は青森市（7/7）、横須賀市（10/31）、名古屋市（3/5）で実施しました。

4.2 印刷工業会液体カートン部会

印刷工業会の中の部会で、製紙メーカー7社で構成されています。

運営・環境・技術の3委員会で構成されており、環境委員会ではアルミ付き紙製容器を中心にリサイクルシステムの情報収集を行い、マテリアルフローを作成しています。

飲紙協の構成団体でもあり、酒造メーカー、食品メーカーと共にアルミ付き容器のリサイクル啓発推進活動を行っています。

紙推進協と同様定期的な組成調査を実施しており、アルミ付きカートンの比率や注ぎ口付きパックの処理状況などのデータ把握を目的として、容環協も組成分析調査に参加しています。

4.3 LL紙パックリサイクル推進研究会（LL研）

LL紙パックの回収・リサイクルを推進するため、様々な活動を展開しており、日本乳業協会も会員団体となっています。

アルミ付き紙パックのマテリアルフローの作成、回収・リサイクルに関する情報共有勉強会の開催、回収・リサイクル現場の見学、聞き取り調査に基づく事例集作成等の活動を通じてアルミ付紙パックの回収・リサイクル普及啓発に努めています。

容環協も勉強会やリサイクル施設の見学などに都度参加しています。

4.4 古紙再生促進センター

古紙の回収・利用の促進を図ることにより、生活環境の美化、紙類の安定的供給の確保、森林資源の愛護に資し、もってわが国経済の健全な発展と豊かな国民生活の維持に貢献することを目的とする団体。

古紙のリサイクル全般において品質安定化、広報、調査研究、資源リサイクル安定化等の事業を行っています。

広報事業の一環として、全国小中学生“紙リサイクル”コンテストを実施しており、容環協も古紙リサイクル業界の一団体として審査に参加しています。

今年度は1月29日に開催されました。

以 上

2023年度 会計収支決算書

自 2023年4月 1日
至 2024年3月31日

〔収入の部〕 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差引	摘 要
繰越金	51,203,653	-	-	
(現金預金)	48,056,259	-	-	
(貯蔵品)	3,147,394	-	-	書籍、回収ボックス、ボックスティッシュ、 トイレットペーパー
拋出金	65,559,000	65,179,000	380,000	トモエ乳業からの振込が4月になったことに起因。 2024年4月1日付で同社から380,000円が振込まれたことを確認済
その他事業収入	3,400,000	1,000,000	2,400,000	2023年10月施行のインボイス制度に準拠した請求書ができないため、会員企業へのボックスティッシュ提供を製造者との直取引に変更。 決算額の 1,000,000円は乳協からの牛乳紙パックで遊ぶ学ぶコンクール協賛金
雑収入	0	0	0	
収入合計 (現金預金)	68,959,000	66,179,000	2,780,000	
収入合計 (貯蔵品)	3,147,394	3,147,394	0	

〔事業費・事務費 支出の部〕 (単位:円)

事業費	73,150,000	65,264,277	7,885,723	
事務費	15,550,000	15,760,191	-210,191	
支出合計	88,700,000	81,024,468	7,675,532	

〔貯蔵品の部〕 (単位:円)

繰越貯蔵品	3,147,394	3,147,394	0	
購入合計	7,050,000	304,590	6,745,410	
出荷支払	8,470,000	1,470,318	6,999,682	
収支合計	1,727,394	1,981,666	-254,272	

〔剰余金額〕

A: 収入合計 (現金貯金)	-	66,179,000	-	期首 繰越現金貯金 48,056,259円
B: 支出合計 (事業費・事務費)	-	81,024,468	-	
C: 貯蔵品収支	-	1,981,666	-	
剰余金 (繰越現金貯金+A-B+C)	-	35,192,457	-	(通常総会にて審議)

[支 出 の 部 ①事業費]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差引	摘 要
事 業 費	73,150,000	65,264,277	7,885,723	
1. リサイクル現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション	17,350,000	17,387,413	-37,413	1.基本調査・補完調査 (ダイナックス都市環境研究所) 2.活動評価調査 (クロスマーケティング) 3.ステークホルダー意見交換会 (ファシリテートと記録をダイナックス都市環境研究所に委託)
2. 回収率向上のための啓発	28,000,000	21,050,355	6,949,645	1.エコプロ2023出展 2.自治体等環境イベント 3.ホームページへの新規情報掲載 4.メディア広告(Web広告) 5.動画作成 学乳パック回収の取組み、エコプロ上映 動画、出前授業動画、新パックン探検隊 6.ノベルティ作成・改訂 ノート、冊子、ポケットティッシュ、 ウエットティッシュ、ぬり絵うちわ、他 7.自治体広告/指定収集袋への掲載 八王子、三鷹、羽村、逗子、泉佐野 8.地域環境リーダー活動支援 (一社)SRAジャパンとの連携、他 9.ボックスティッシュとトイレトペーパー製作
3. 回収・再生インフラの整備支援	2,800,000	2,152,232	647,768	古紙原料問屋調査 (ダイナックス都市環境研究所)
4. 子どもたちの環境マインド醸成	8,050,000	7,878,088	171,912	牛乳紙パックで遊ぶ学ぶコンクール 協賛(スピン)
5. 活動への理解促進、公表と評価	4,100,000	3,960,000	140,000	2024年次報告書の作成
6. 事業共通費	6,300,000	5,804,000	496,000	1.飲料用紙容器リサイクル協議会負担金 2.プラン2025遂行費(顧問契約費含)
7. 旅 費	5,800,000	6,191,973	-391,973	1.上記事業にかかわる出張・外勤旅費 2.北米視察 容環協負担分 5,000,000円を予算化、事業コード未設定 のため旅費交通費として計上
8. 会 議 費	600,000	787,734	-187,734	上記事業にかかわる専門委員会会場 費、会議費、外部施設使用費
9. 交 際 費	150,000	57,558	92,442	他団体や企業(協業団体、古紙問屋、再 生紙メーカー等)との交際費、他
10. その他	0	▲ 5,076	5,076	リース契約変更による戻し金

〔支出の部 ②事務費〕

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要
事 務 費	15,550,000	15,760,191	-210,191	
委 託 費	13,000,000	13,187,259	-187,259	(一社)日本乳業協会委託費 派遣社員雇用費
通信運搬費	900,000	1,166,412	-266,412	切手・郵便・宅配便等通信費 メールアドレス管理委託費
印刷製本費	20,000	0	20,000	2023年度該当なし
旅費交通費	100,000	77,513	22,487	九段下近辺の交通費
消 耗 品 費	50,000	98,705	-48,705	コピー用紙、文具類、名刺等 各専門委員の名刺を作成
保 管 料	700,000	741,022	-41,022	資料や冊子類の倉庫保管費 回収ボックス保管・管理費
手 数 料	120,000	135,080	-15,080	振込手数料、Web手数料、 システム使用料
雑 費	10,000	0	10,000	2023年度該当なし
広告宣伝費	120,000	134,200	-14,200	業界誌広告掲載費
諸 会 費	360,000	220,000	140,000	1. 集めて使うリサイクル協会 2. 3R活動推進フォーラム 3. 東京都リサイクル事業協会 4. 全国バック連
交 際 費	10,000	0	10,000	2023年度該当なし
租 税 公 課	30,000	0	30,000	2023年度該当なし
予 備 費	50,000	0	50,000	2023年度該当なし

〔貯蔵品の部 ③購入・払出収支〕

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要
繰越貯蔵品	3,147,394	-	-	
購入合計	7,050,000	304,590	6,745,410	
回収ボックス (通常サイズ)	0	0	0	
ボックスティシュ	2,050,000	80,190	1,969,810	
トイレットペーパー	5,000,000	224,400	4,775,600	
払い出し合計	8,470,000	1,470,318	6,999,682	
紙パック宣言	20,000	4,200	15,800	
回収ボックス (ハーフサイズ)	200,000	6,156	193,844	
回収ボックス (通常サイズ)	1,200,000	1,206,192	-6,192	
ボックスティシュ	2,050,000	76,890	1,973,110	
トイレットペーパー	5,000,000	176,880	4,823,120	
貯蔵品残高	1,727,394	1,981,666	-254,272	

貸借対照表

2024年3月31日現在
2023年3月31日現在



〔資産の部〕

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
流動資産計	35,192,457	
現金	39,694	
普通預金	33,171,097	預入先:みずほ銀行麹町支店
貯蔵品	1,981,666	書籍「紙パック宣言」、回収ボックス(通常サイズ、1/2サイズ)、オリジナルBOXティッシュ、オリジナルトイレトペーパー
固定資産計	0	
資産合計	35,192,457	(A)

〔負債の部〕

科 目	金 額	摘 要
流動負債計	0	
預かり金	0	
固定負債計	0	
負債合計	0	(B)

〔正味財産の部〕

正味財産合計	35,192,457	(A)-(B)
負債及び正味財産合計	35,192,457	

上記の通りであります。

監査の結果、正確なることを認めます。

2024年4月11日

監 事

今井哲哉



監 事

木下善文



2023年度 剰余金処分 (案)

2023年度 剰余金 金 額 35,192,457円

これを次の通り処分する。

2024年度 繰越金 金 額 35,192,457円

以 上

2024年度事業計画（案）

1. 2024年度事業計画の基本的な考え方

2024年度も自主行動計画「プラン2025」に基づき、各事業を進めるものとする。

「プラン2025」の5つの柱をベースとし、経営的な考え方を基本に限られた資源を有効活用しながら、紙パック回収率の向上と容環協の活動の理解を高める。

「プラン2025」の5つの柱

- Ⅰ. 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション
- Ⅱ. 回収率向上のための啓発
- Ⅲ. 紙パックの回収・再生インフラの整備支援
- Ⅳ. 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上
- Ⅴ. 活動への理解促進、活動の公表と評価

2. 予算計画

コロナ禍により主要事業が実施できなかった対策として、2023年度は約2,000万円のマイナス予算を組み、WEB広告やビデオ・冊子新規作成、HP更新などに力を注いだ（最終的には予算施行率91.3%）。

諸活動の正常化を受け、今後は収支均衡に向けた方向修正を行う。

しかしながら、2024年度は前年度計画から約1,500万円強の事業支出を削減したものの、諸費用の高騰やこれまで効果の出ている事業については急激な予算削減が困難なこと、および拠出金の減少（約200万円弱）が見込まれるため、2024年度については830万円のマイナス予算とし、2025年度に収支均衡を目指し段階的に修正することとしたい。

なお、支払いの時期ズレへの対応や不測の事態に備え一定の剰余金（繰越金）が必要となるが、これまでの運営実績を勘案した結果、2024年度剰余金残高見込2,689万円を確保できれば組織運営的に問題はないと判断する。

単位（千円）

	収入	事業支出	収支 (2022年度 より 貯蔵品 収支を含む)	剰余金 (繰越金)
2024年度 予算案	64,829	73,130	▲8,301	(26,891)
2023年度 実績	66,179	81,024	▲16,012	35,192
2022年度 実績	73,454	74,485	▲1,904	51,204
2021年度 実績	70,410	61,988	8,422	53,108
2020年度 実績	69,993	57,107	12,887	44,686
2019年度 実績	68,522	72,680	▲4,158	31,799

3. 2024年度重点推進事業

- 1) 古紙問屋や再生紙メーカーとのコミュニケーションを重視し、意見交換会や現地訪問・見学などの場を通じ、課題の共有や連携強化を図る。(Ⅰ)
- 2) 出展イベントや地域支援イベント、リサイクル講習会、出前授業などで使用する啓発ツールについて、使用目的に合わせてさらに深化させ、効果的な広報啓発活動を目指す。(Ⅱ、Ⅳ)
- 3) 「SNSによる啓発記事の配信」や「自治体ごみ袋広告」などの大規模な広報啓発を継続し、できるだけ多くの方々に紙パックリサイクルを周知していく。(Ⅱ、Ⅳ)
- 4) 学乳パックを含む事業系紙パックの回収について引き続き推進することとし、関連自治体や業界団体と連携しながら回収率向上を目指す。併せて、回収インフラの整備も進めていく。(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)

4. 2024年度に方向修正をする事業について

- 1) 回収拠点マップについては、流通や行政からの情報公開を前提としたデータ構築が困難であることが判明したため、非公開データの蓄積によるエリア特性把握や可能な部分についてモデルケースの構築を検討する。(Ⅲ)
- 2) ラミネートプラスチックのリサイクルについては、独自ツールの作成には技術的なハードルがあることが判明したため、これまでの評価を実施した後、事業者間の対応に任せることとし、今後とるべき方向性を探る。(Ⅰ、Ⅲ)

5. 事業の運営について

- 1) 容環協の事業については、運営委員会における討議・進捗確認を行い、各専門委員会（総務、支部組織、広報、イベント）が中心になり企画・運営を進める。
事務局は事業全般について、これを支援する。
- 2) 期中における新規事業の実施や事業の中止・延期についても柔軟に対応する。
なお、その際には運営委員会によるレビューを実施し情報共有するとともに、必要があれば4半期運営委員会などの場において理事にも報告する。

以 上

[第3号議案] 2024年度-事業計画 (案) 及び 予算 (案)

2024年度予算／拠入金入力・剰余金入力済 (20240410)

項 目		2024年度予算	2023年度予算	増減額	備考
収入の部					
収入合計					
拠出金		64,829,000	68,959,000	-4,130,000	
その他事業収入 (負担金収入含む)		63,829,000	65,559,000	-1,730,000	紙パック飲料の出荷減による拠出金減 (2023年度比97.36%、2022年度比91.56%)
雑収入		1,000,000	3,400,000	-2,400,000	2023年実績に基づき減額 (インボイス制度施行／一部ハバルティは直取引)／乳協コンクール協賛金のみ
2023年度剰余金 (繰越金見込み)		35,192,457	51,203,653	-16,011,196	4/11 幹事監査報告予定額 (現金貯金+貯蔵品)
収入合計+剰余金 (貯蔵品含む)		100,021,457	120,162,653	-20,141,196	
支出の部					
支出合計 (事務費含む)					
【1】事業費合計 (1～9項にかかわる事業費)		73,130,000	88,700,000	-15,570,000	
1. リサイクル現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション	小計	57,580,000	73,150,000	-15,570,000	
	基本調査	18,350,000	17,350,000	1,000,000	
	補充調査	12,000,000	12,000,000	0	ダイナックス社委託調査、2023年度予算と同額を想定、郵送費アップが課題
	活動評価調査	3,000,000	3,000,000	0	ダイナックス社委託調査、2023年度予算と同額を想定
	ステークホルダー意見交換会	3,000,000	2,000,000	1,000,000	2023年度実績に基づき増額 (関東+他地域)、関東だけなら200万円
	再生紙メーカー等情報交換	350,000	250,000	100,000	Web会議想定、ダイナックス社に議事進捗と記録を委託 (御能事務所閉鎖)・2023年度実績と同額
	小計	22,150,000	100,000	-100,000	Web会議として予算削減、会議室使用については8項で経理処理
	エコプロ	7,250,000	28,000,000	-5,850,000	
	自治体等環境イベント	400,000	7,500,000	-2,500,000	出展費6/8割(42万円×6)+工事費(10万円)+ブース設営費(昨年462万円)
	ホームページ改修	800,000	1,000,000	-100,000	大規模イベントを想定しない、2023年度実績に基づき減額
2. 回収率向上のための啓発	メディア広告	5,000,000	6,000,000	-200,000	定常管理と情報更新、2023年度実績に基づき減額
	動画作成	2,000,000	2,000,000	0	Web広告と継続、四半期毎→4か月毎への変更を想定し減額
	ハバルティ作成 (シート、冊子、ウェブサイト&ポッドキャスト、他)	1,500,000	1,500,000	0	対象毎毎の新動画作成、DVDパッケージ化、手開動画更新、2023年度予算と同額を想定
	自治体広告	1,000,000	1,000,000	0	要「学習乳パック」引き上げ訂正、ハバルティ制作費は2023年度予算と同額を申請
	地域環境リーダー活動支援	3,000,000	3,000,000	0	2023年度予算と同額、情報を集めて多くの自治体に申請
	回収ポスター制作	800,000	0	800,000	SRAジヤパンとの連携、増額は厳しく、2023年度予算と同額を想定
	ポウスタシス制作	0	1,500,000	-1,500,000	要発注 (@3,866×500)、要デザイン変更、計上は2024年度提供分のみ
	トレットバーバー制作	400,000	4,000,000	-3,600,000	インボイス制度施行により会員登録分は直取引、在庫で賄う
	小計	2,600,000	2,800,000	-200,000	イベント用として500c製作を想定 (@3630×500)、計上は年度提供分100cのみ
	回収拠点フォローアップ	0	100,000	-100,000	Mowofとの関係は想定できず、予算上はペディング (必要に応じて予備費で充当)
3. 回収・再生インフラの整備支援	古紙原料調査	2,200,000	2,200,000	0	ダイナックス社委託調査、2023年度予算と同額を想定
	地域会議	400,000	500,000	-100,000	2022年度実績に基づき減額 (会議室、機材、フナシレーター費用)
	小計	7,000,000	8,050,000	-1,050,000	
4. 子どもたちの環境マインド育成	遊ぶ学ぶコンクール協賛	7,000,000	7,000,000	0	スピン社へ委託、2023年度予算と同額 (事務局運営、表彰式、審査員謝礼等)
	出前授業等	0	50,000	-50,000	専門委員が講師を担当、費用負担抑定せず、日当や交通費は7～9項で充当
	遊ぶ学ぶ学校調査	0	1,000,000	-1,000,000	2024年度は実施しない (コンクール案内と合わせたコトけ後の検証は次年度以降)
	年次報告書作成	4,000,000	4,100,000	-100,000	DNP社に制作を委託、発行部数を減らして減額
5. 活動への理解促進、公表と評価	小計	1,900,000	6,300,000	-4,400,000	
	6. 1 取組協賛負担金	1,800,000	1,800,000	0	2023年度と同額を想定、可能であれば負担を減らしたい
6. 2 プラン202025対応費	6. 2 プラン2025委託	100,000	4,500,000	-4,400,000	
	6. 2 プラン2025予備費	0	3,500,000	-3,500,000	契約満了、顧問委託料なし
7. 旅費交通費	上記事業に關する旅費交通費	100,000	1,000,000	-900,000	2023年度の費用実績が少ないため1/10に減額
	北米視察 容環境協賛負担	800,000	800,000	0	2023年度と同額を想定、2023年度の北米視察以外の実績と同額を見込む
8. 会議費	上記事業に關する会議費	700,000	600,000	-5,000,000	2024年度は海外視察を計画しない
	上記事業に關する交際費	80,000	150,000	100,000	乳業会議室の使用準備アップ、2023年度予算+10万円を想定
9. 交際費	小計	15,550,000	15,550,000	-70,000	2023年度実績を鑑み減額
	1. 事務経費	15,500,000	15,500,000	0	
2. 予備費	2. 予備費	50,000	50,000	0	2023年度と同額を想定、乳業協会への業務委託費、リクルートから賃金増の打診あり
	【3】上記に含まれない支出	0	0	0	2023年度と同額を想定
単年度収支 (収入合計-支出合計 (事務費含む)) ※ 剰余金含まない		▲ 8,301,000	▲ 19,741,000	0	想定しない

2024年度の拠出金見込額 (63,829,000円) と2023年度の活動実績に基づいて精査した。2023年度予算に対して、事業費を-15,570,000円圧縮しているが、現時点では、想定される2024年度の収入合計 (拠出金+事業収入) 64,829,000円に対し、支出合計が73,130,000円であり、剰余金の使用約830万円を見込んだ赤字予算。

全国牛乳容器環境協議会 役員名簿

	役職	氏名	所属・役職
1	会長	柳田 恭彦	森永乳業(株) 取締役常務執行役員 生産本部長
2	副会長	井上 剛彦	雪印メグミルク(株) 取締役常務執行役員
3	副会長	原田 裕司	(株) 明治 取締役専務執行役員
4	副会長	上田 晃司	日本テトラパック(株) 取締役副社長 営業統括
5	副会長	大林 保仁	日本製紙(株) 専務執行役員 紙パック営業本部長
6	常務理事	伊藤 忍	一般社団法人 日本乳業協会 常務理事
7	理事	沼田 一政	一般社団法人 日本乳業協会 専務理事
8	理事	川崎 浩	全国乳業協同組合連合会 専務理事
9	理事	林 雅典	一般社団法人 Jミルク 事務局次長兼コミュニケーショングループ部長
10 ○	理事	井出 元郎	よつ葉乳業(株) 常務取締役 生産統括部長 十勝主管工場長
11	理事	佐伯 吾郎	西武酪農乳業(株) 取締役会長
12	理事	川口 稔	北越パッケージ(株) 取締役 営業本部長
13	理事	田村 亮一	石塚王子ペーパーパッケージング(株) 代表取締役社長
14 ○	理事	野上 達矢	TOPPAN(株) 生活・産業事業本部 パッケージソリューション事業部 第一営業本部長
15	理事	山内 正己	東京製紙(株) 容器事業部長
1	監事	木下 善文	大日本印刷(株) Lifeデザイン事業部 APセンター センター長
2	監事	今井 哲哉	協同乳業(株) 取締役

○：前回の総会（2023年4月20日）以降の変更

任期：2023年4月20日から第34回度通常総会（2025年4月17日開催予定）まで

2024年度- 理事会、通常総会、四半期-運営委員会 日程

理事会・通常総会

開催日時	会議名	開催場所
2024年_4月18日(木) 14時	第101回-理事会 第33回-通常総会	乳業会館 3階 A会議室 乳業会館 3階 B/C会議室
2024年12月19日(木) 15時30分	第102回-理事会	乳業会館 3階 A会議室
2025年_3月13日(木) 15時30分	第103回-理事会	乳業会館 3階 A会議室
2025年_4月17日(木) 14時	第104回-理事会 第34回-通常総会 第105回-理事会	乳業会館 3階 A会議室 乳業会館 3階 B/C会議室

四半期-運営委員会

開催日時	会議名	開催場所
2024年_5月14日(火) 15時	第1四半期-運営委員会	乳業会館 3階 D会議室
2024年_8月21日(水) 15時	第2四半期-運営委員会	乳業会館 3階 C会議室
2024年11月13日(水) 15時	第3四半期-運営委員会	乳業会館 3階 C会議室
2025年_2月12日(水) 15時	第4四半期-運営委員会	乳業会館 3階 C会議室



容器包装 3 R 推進のための自主行動計画 2025 2022 年度フォローアップ報告

2023 年 12 月

3 R 推進団体連絡会

ガラスびん 3 R 促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

目 次

I 自主行動計画 2025 の推進について	1
1. 事業者自ら実践する 3 R 行動計画の成果	2
1.1 リデュースの取り組み	3
1.2 リユースの取り組み	5
1.3 リサイクルの取り組み	6
1.4 普及・啓発活動の推進	8
2. 主体間の連携に資するための行動計画の成果	9
2.1 各主体との交流・意見交換	11
2.2 広報・啓発事業	14
II 団体別 2022 年度フォローアップ結果	17
1. ガラスびん 3 R 促進協議会	18
2. PET ボトルリサイクル推進協議会	24
3. 紙製容器包装リサイクル推進協議会	30
4. プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	35
5. スチール缶リサイクル協会	41
6. アルミ缶リサイクル協会	46
7. 飲料用紙容器リサイクル協議会	53
8. 段ボールリサイクル協議会	61

I 自主行動計画 2025 の推進について

■ 3 R推進団体連絡会とは

3 R推進団体連絡会は、容器包装リサイクル法の対象である、ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、飲料用紙容器、段ボールの8素材の容器包装の3 Rを推進する八団体により、2005年12月に結成されました。

循環型社会の構築に寄与するため、容器包装リサイクル法にもとづく分別収集と再商品化をはじめ3 R（リデュース・リユース・リサイクル）を一層効率的に推進するための事業を、広範に展開しています。

■ 自主行動計画の策定・実行の経緯

本連絡会は「容器包装3 R推進のための自主行動計画」に基づき、「事業者が自ら実践する容器包装3 Rの取り組み」と「消費者・NPO、自治体・行政など主体間の連携に資するための取り組み」を進めてきました。計画の取り組み内容や目標の見直しは5年ごとに行っており、2021年4月には「容器包装3 R推進のための自主行動計画2025」を公表しています。

取り組みの進捗状況は毎年度フォローアップし公表しています。本報告書は「容器包装3 R推進のための自主行動計画2025」（以下、「自主行動計画2025」と言います。）の2年度目にあたる2022年度実績のフォローアップ結果です。

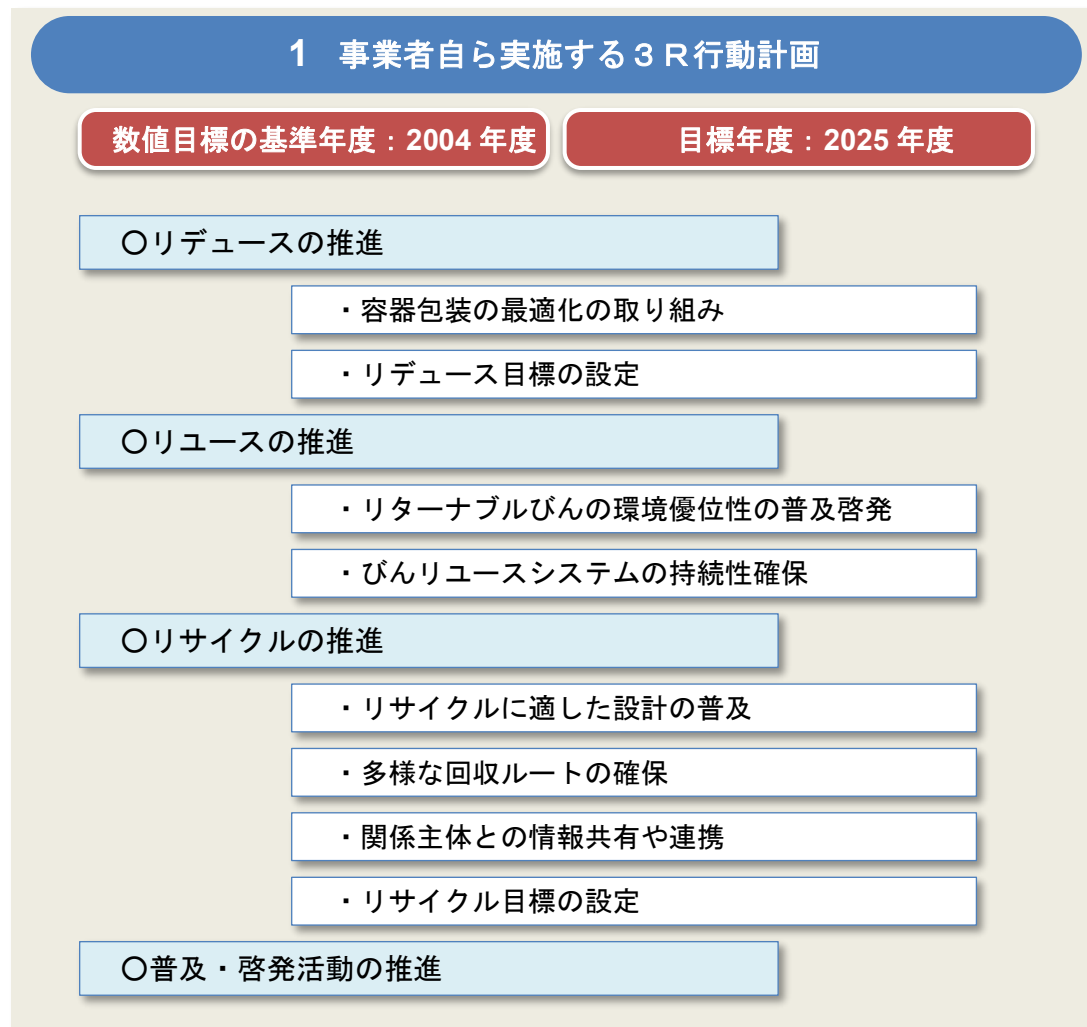


当連絡会では、循環型社会の形成に向け、今後とも容器包装の3 Rと関係主体間の相互理解と連携の深化に一層努力してまいりたい所存です。当連絡会および関係八団体の活動にご理解とご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げますとともに、自主行動計画2025の推進に変らぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

1. 事業者自ら実践する 3 R 行動計画の成果

計画項目

下図のとおり、構成八団体ごとに、リデュース・リユース・リサイクルの取り組み目標・項目を設定しています。基準年度は 2004 年度、目標年度は 2025 年度です。



2022 年度の取り組み実績（概要）

- 8 素材中、リデュースについては 5 素材、リサイクルについては 4 素材が数値目標をクリアしています。今後ともリデュース・リサイクル水準の維持とさらなる推進を図ります。
- ガラスびんリユースシステムの維持に向けては、持続性確保の取り組みを関係者と連携して引き続き進めています。

1.1 リデュースの取り組み

容器包装には「内容物の保護」「取り扱いの利便性向上」「消費者への情報提供」などの基本的な機能・役割があります。容器包装のリデュースを進めるにあたり、容器包装の基本的な機能を損なわないことを前提に、軽量化や薄肉化、無駄のない形状への変更、コンパクト化など、各団体ではそれぞれの素材の特性に応じ、資源使用量や環境負荷削減の取り組みを展開しています。

容器包装の最適化の取り組み

各素材では、2025 年度を目標年度としたリデュース目標数値を設定し、環境配慮設計の考え方の普及、軽量化や薄肉化、無駄のない形状への変更、コンパクト化など、容器包装リデュースの取り組みを展開しました。

ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装といった素材では、「自主設計ガイドライン」を策定の上、運用を図っています。また、プラスチック資源循環促進法の施行を受け、プラスチック容器包装では「プラスチック容器包装の環境配慮に関する自主設計指針改定版」をバージョンアップした「環境配慮設計指針ガイドライン」を運用しています。

容器包装の最適化に向け事業者はさまざまな取り組みを展開しています。各団体では、こうした取り組み事例を「3R 改善事例集」や WEB 上の検索システムに取りまとめるなどして情報発信し、取り組みの普及促進を図っています。



プラスチック容器包装
環境配慮パッケージ事例検索システム



ガラスびんの軽量化



紙製容器包装 3 R改善事例集

数値目標の達成状況

素材に応じてリデュースの指標を定め、数値目標を掲げてリデュースに取り組んでいます。

2022 年度のリデュース実績は図表 1 のとおり、8 素材中 5 素材が目標値をクリアしています。また、第一次自主行動計画からの累計削減量は素材合計で 1,221 万トンとなりました（図表 2）。

2025 年度に向け引き続きリデュースの取り組みを進め、目標水準の維持及びさらなる資源使用量削減を目指します。

図表 1 リデュースの目標と実績

素 材	指 標	2025 年度目標 (基準年度：2004 年度)	2022 年度実績
ガラスびん	1 本／1 缶当 たり平均重量 の軽量化率	1.5%以上	2.5%
PET ボトル		25%以上	27.6%
スチール缶		9%以上（※1）	9.4%
アルミ缶		6%以上	6.1%
飲料用紙容器	1 m ² 当たり平 均重量の軽量 化率	3%以上（※2）	2.7%
段ボール		6.5%以上	6.2%
紙製容器包装	リデュース率	15%以上	16.2%
プラスチック容器包装		22%以上	19.7%

※1 2021 年に 8%から上方修正

※2 牛乳用 500ml サイズカートンを対象とする。

図表 2 累計削減量（※）の推移

年度	自主行動計画2020					自主行動計画2025	
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
素材							
ガラスびん	214	239	252	270	290	308	331
PETボトル	843	1,093	1,283	1,468	1,645	1,834	2,046
スチール缶	226	250	273	298	322	346	369
アルミ缶	83	93	100	110	117	125	133
飲料用紙容器	1.4	1.7	2.1	2.4	2.7	2.9	3.1
段ボール	2,551	3,015	3,486	3,988	4,544	5,102	5,622
紙製容器包装	1,621	1,856	2,081	2,356	2,849	3,245	3,585
プラスチック容器包装	82	88	102	111	115	120	121
計	5,621	6,636	7,579	8,603	9,884	11,083	12,210

※2004 年度を基準とした 2006 年度からの累計

1.2 リユースの取り組み

びんリユースシステム持続・構築のための関係主体との取り組み

ガラスびんは“内容物の香味を吸着しない”“細菌などがつきづらい”“容器の成分が溶出しにくい”などの特性があるため、洗浄すれば何度でも内容物を充填できる、衛生性・安全性に優れたリユースに最適な容器です。

リユース用に製造されたリターナブルびんは、使用後に販売店・びん商等が回収し、洗浄・検査の後、再び中身メーカーが充填し、出荷・販売するリユースシステムで運用されています。このリユースシステムは資源の有効利用のみならず、GHG（温室効果ガス）排出量が少ないためカーボンニュートラルにも貢献しています。

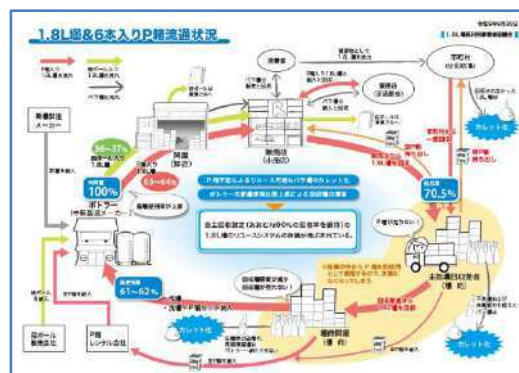
自主行動計画2025では、びんリユースシステム持続のため、引き続き関係主体との連携による取り組みを進めています。

びんリユースシステムの持続性確保

びんリユースシステムの維持・運営の要であるびん商の取り扱い量の大半が1.8L 壺（一升びん）であるため、リユースびん全体の回収システムを維持・運営するためにも、1.8L 壺（一升びん）の回収率の向上が重要です。

このため、関係他団体（日本酒造組合中央会、1.8L 壺再利用事業者協議会等）とも連携して1.8L 壺（一升びん）の回収率を補足するとともに、回収率向上に向けた取り組みを行っています。

また、日本ガラスびん協会、東京家政大学と連携し、産学連携のリターナブルびん商品を活用した学内 CO₂ 排出削減を可視化する実証事業「be draw project」を開始しました。



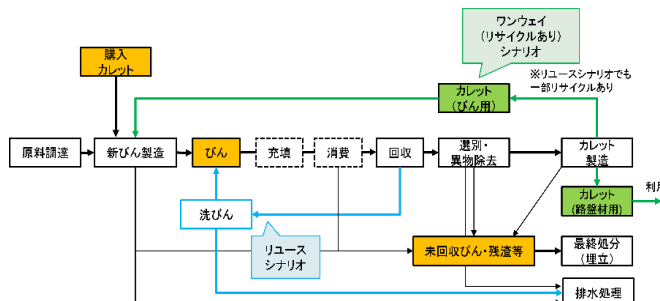
1.8L 壺のフロー

<http://www.returnable-navi.com/shijo/18bin/img/18bin-distribution2023.pdf>

リターナブルびんの環境優位性の普及啓発

ガラスびんは唯一リユース可能な容器であり、回収率や輸送距離、再使用回数の条件が整えば、ワンウェイ容器に比べてもGHG排出量は低くなります。

環境負荷の低減は資源節約のみならず、GHG排出量も大幅に削減されます。この優れたGHG削減効果を見える化するために、ガラスびんリユースシステムのライフサイクル分析を行い、その概要をリターナブルびん専門サイトの「リターナブルびんナビ」に掲載しています。



LCAのシステム境界

<http://www.returnable-navi.com/envdata/lca2021.shtml>

1.3 リサイクルの取り組み

容器包装のリサイクルは、消費者、自治体、事業者といった様々な主体が各々の役割を徹底し、連携していかなければ成り立ちません。我が国の容器包装リサイクルの普及・進展は、関係各主体がそれぞれの役割に真摯に取り組んだ成果と言えます。

構成八団体ではリサイクル推進に向け多様な取り組みを進めています。

事業者によるリサイクル推進の取り組み

リサイクル適性に優れた素材の改善・改良、潰しやすさ・折りたたみやすさの向上や簡素化など、設計段階で容器包装のリサイクル適性を向上させるために、各団体では、前述の「3 R改善事例集」の作成や環境配慮設計ガイドラインの作成・普及を図っています。

また、地域団体による集団回収、販売店回収、学校などにおける拠点回収など、多様な回収ルートへの支援に向け、各団体では回収ボックスの提供や回収団体の表彰等を行っています。



指定 PET ボトルの自主設計ガイドライン
(2023 年 3 月改訂)



小学校でのスチール缶集団回収の様子と
環境教育支援表彰



アルミ缶回収協力者表彰



紙パック回収ボックスの提供

数値目標の達成状況

2022 年度の各素材のリサイクル実績は図表 3 に示すとおり、8 素材中 4 素材が目標値をクリアしています。また、スチール缶やアルミ缶、段ボールでは 90%以上のリサイクル率、回収率が維持されています。資源リサイクルは原材料市場や為替市場動向の影響を受けざるを得ない面がありますが、引き続きリサイクルの促進に向けた取り組みを進めます。

なお、各素材のリサイクル指標の計算方法は図表 4 のとおりです。

図表 3 リサイクル目標の達成状況

素 材	指 標	2025 年度目標 (基準年度： 2004 年度)	2022 年度実績
ガラスびん	リサイクル率	70%以上	72.0%
PET ボトル		85%以上	86.9%
プラスチック容器包装		60%以上 ※1 (46%)	65.0% (45.9%)
スチール缶		93%以上 ※2	92.7%
アルミ缶		92%以上	93.9%
紙製容器包装	回収率	28%以上 ※3	22.9%
飲料用紙容器		50%以上	38.7%
段ボール		95%以上	94.8%

※1 2021 年度より算定方式を見直し（カッコ内は従来の算定方式）

※2 2021 年に 90%から上方修正

※3 2021 年度より算定方式を見直し

図表 4 各容器包装のリサイクル指標の分母・分子一覧

素材	指標	ものの流れ			
		製造・出荷	廃棄・回収	選別・分別	再資源化
ガラスびん	リサイクル率	分母 ：国内出荷総重量（出荷量＋輸入量－輸出量）			分子 ：利用事業者に引渡されたカレット総重量
PETボトル		分母 ：国内販売量（出荷量＋輸入量）			分子 ：国内・国外再資源化量
プラスチック容器包装			分母 ：市町村回収量・自主回収量		分子 ：容リ再商品化量、自主的回収等
スチール缶		分母 ：国内消費量（出荷量＋輸入量－輸出量）			分子 ：国内鉄鋼会社再資源化量
アルミ缶		分母 ：国産缶出荷量＋輸入缶量－輸出缶量(塗料を除く)			分子 ：二次合金メーカー購入量（組成率加味。輸出分を含む）
紙製容器包装	回収率		分母 ：産構審排出見込量	分子 ：家庭からの回収量（推定）	
飲料用紙容器		分母 ：飲料用紙パック原紙使用量		分子 ：国内飲料用紙パック回収量	
段ボール		分母 ：段ボール原紙消費量＋輸出入商品梱包用入超分		分子 ：段ボール古紙実質回収量	

1.4 普及・啓発活動の推進

容器包装の3Rを進めていくためには、使用済容器包装の排出者である消費者をはじめ、関係者の理解・協力が欠かせません。各団体では素材の特性に応じ、多様な普及啓発・情報発信活動を展開しました。

容器包装の3Rに関する普及啓発・情報発信

各団体においては、パンフレットや年次報告書、ホームページなどによる情報発信のほか、児童・生徒向けの出前講座、市民、自治体や関係者との意見交換会など、多種多様な普及活動を展開しています。SNS（Social Networking Service）など ICT（情報通信技術）の活用にも力を入れています。

また、プラスチック資源循環促進法など新たな法制度に対応するためのセミナーの開催、マテリアルフロー把握のための調査・分析等にも継続して取り組んでいます。

詳細につきましては、「団体別 2022 年度フォローアップ結果」をご覧ください。



ガラスびんの3R検定「中級編」



製缶工場等見学会
(スチール缶)



SNSでの情報発信
(飲料用紙容器)



段ボール古紙の開梱調査



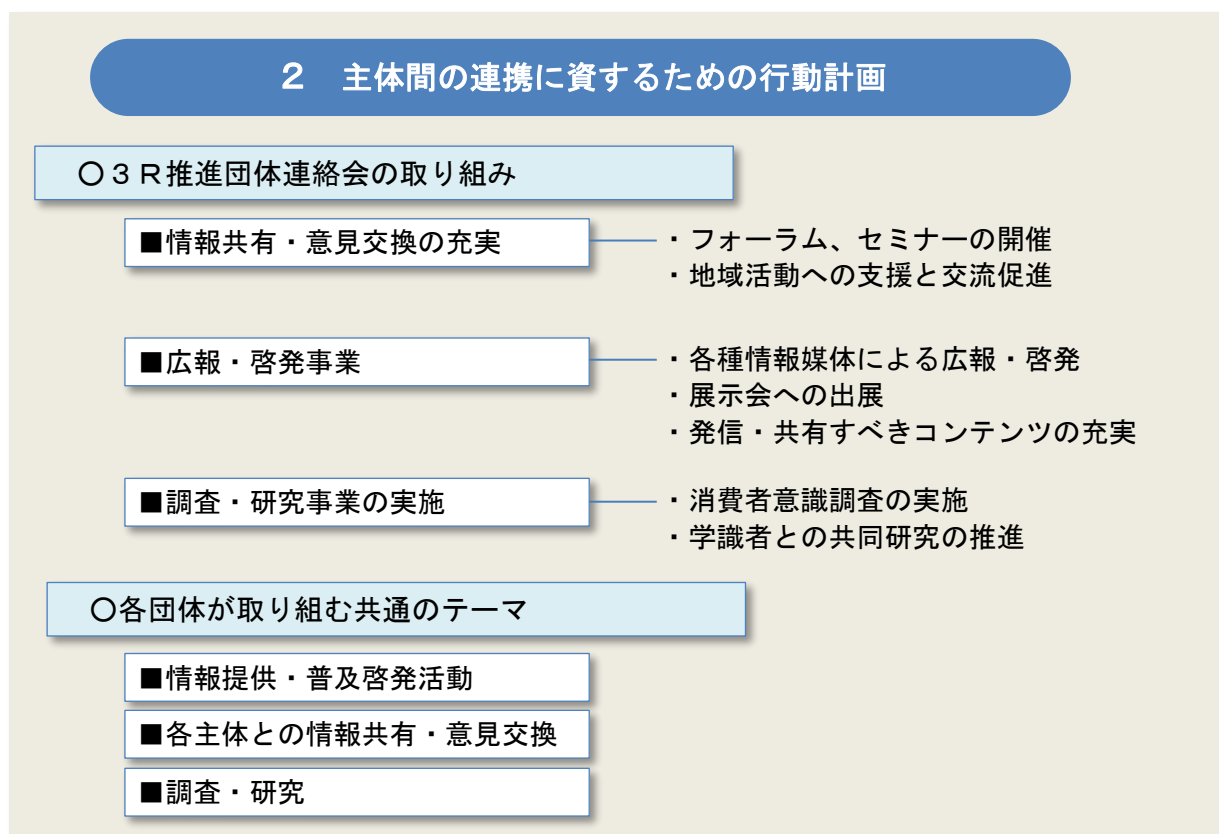
プラスチック資源循環セミナーの開催

2. 主体間の連携に資するための行動計画の成果

計画項目

下図のとおり、「主体間の連携に資するための行動計画」は「3 R推進団体連絡会の取り組み」と「各団体が取り組む共通のテーマ」の2本柱となっています。

当連絡会としては、容器包装3 Rに向けた様々な普及啓発活動、他主体との共同事業に取り組みました。他方、「各団体が取り組む共通のテーマ」は、3 R推進団体連絡会が設定したテーマに沿って、各団体が個別に連携推進に係る活動を展開しました。



2022 年度の取り組み概要

- 新型コロナに関する行動制限が徐々に緩和されたことに伴い、実会場での講座、フォーラム、意見交換会、展示等の活動が復活しつつあります。
- 啓発パンフレットの改訂に続き小冊子「リサイクルの基本」を改訂し、普及啓発媒体の充実を図りました。

図表 5 は、過去の主な主体間連携の取り組み年表です。

次ページより、2022 年 12 月～2023 年 11 月に実施した取り組みを紹介します。

図表 5 主体間連携のための共同の取り組みの実施状況

年度	第1次自主行動計画					第2次自主行動計画					自主行動計画2020					自主行動計画2025				
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022			
各主体との交流・意見交換	3 Rリーダー交流会					地域でのリーダー育成														
						ワーク ショップ (川崎市)	ワーク ショップ (川崎市)	ワーク ショップ (川口市)	川口市 国分寺市 相模原市	さいたま市 越谷市	千葉市 松戸市	荒川区	新宿区	町田市	町田市 柏市	市川市	白井市			
	容器包装 3 R連携市民セミナー																			
	東京都	北九州市 川崎市	京都市	仙台市	名古屋市	福岡市	札幌市	東京都												
	意見交換会（容器包装 3 R交流セミナー）																			
											東京都 富山市 岡山市	長野市 松山市 名古屋市	静岡市 福井市 さいたま市	千葉市 東京都 福岡市 長崎市	札幌市 鳥取市 仙台市 大阪市	山形市 金沢市 高知市	福岡市 京都市 秋田市	函館市 松本市		青森市 奈良市 鹿児島市
	容器包装 3 R推進フォーラム																			
	横浜市	神戸市	東京都	京都市	さいたま市	名古屋市	仙台市	川崎市	品川区	北区	荒川区	中央区	杉並区	千代田区	オンライン	オンライン	墨田区			
				マスコミとの 懇談会																
	エコプロ（2015 年までエコプロダクツ展）への出展																			
	3R推進全国大会への出展										3 R推進全国大会等への出展						3R推進全国 大会等への出展			
				東京国際 包装展出展							東京国際 包装展出展									
普及・啓発	ポスター 作成	ホーム ページ 開設		小冊子「リサイクルの基本」、啓発パンフレット「未来へとつながる 3 R社会をめざして」作成・配布・改訂																
	AC 支援による 啓発事業																			
						容器包装 3 R制度研究会					神戸大学との共同研究									
						消費者 意識調査		消費者 意識調査			消費者 意識調査					消費者 意識調査				
調査・研究																				

2.1 各主体との交流・意見交換

(1)意見交換会「容器包装 3 R交流セミナー」の実施

地域単位で市民・NPO や自治体と事業者の直接対話を継続

3 R活動推進フォーラムとの共催による意見交換会「容器包装 3 R交流セミナー」は、市民・NPO や自治体と事業者の直接対話を通して、相互理解と連携・協働への着実なステップを図り、主体間連携を進めることを目的としています。

意見交換会は 2013 年度以来、全国各地で年 3 回程度ずつ開催してきており、2022 年度までの開催回数は合計で 24 回となっています。各意見交換会では、省庁からの基調報告や地域自治体における取り組み報告、事業者の取り組み事例紹介といった情報提供の後、グループに分かれて今後の容器包装 3 Rのあり方等に関する活発な討論、意見交換を行っています。

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ青森市・奈良市・鹿児島市で開催しました。

図表 6 これまでの市民・自治体と事業者の意見交換会の参加者総数

年度	市民・NPO等	国・自治体	事業者	合計
2013 年度	27	44	51	122
2014 年度	27	43	60	130
2015 年度	29	29	61	119
2016 年度	33	48	54	135
2017 年度	24	43	56	123
2018 年度	27	37	51	115
2019 年度	22	34	75	131
2020 年度※	21	27	43	91
2021 年度※	—	—	—	—
2022 年度	28	22	72	122
合計	238	327	523	1,088

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 2020 年度は 2 ヶ所でのみ開催、2021 年度は中止。

2023 年度のトピックス

2023 年度は札幌市（7 月 13 日、25 回目）、松江市（11 月 8 日、26 回目）で意見交換会を開催しました。



札幌市での意見交換会

(2) 3 R市民リーダー育成プログラム

3 R市民リーダーの地域活動等を支援

「3 R市民リーダー育成プログラム」は都内の市民リーダーの方々と 2011 年度から検討し作り上げ、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット（以下、「元気ネット」という。）を事務局として進めています。一般市民への「3 R」の伝え方やイベント等で使える講座プログラムを、地域の 3 R市民リーダーの方々にご活用いただきリーダー育成に役立て、伝える人を増やしていこうという事業です。

2016 年度以降、千葉市、松戸市、荒川区、新宿区、町田市、柏市、市川市にてそれぞれの地域の行政の協力を得ながら 3 R市民リーダーの育成講座やイベント開催などにより、新規リーダーの育成を継続的に実施しています。

2022 年度から 2023 年度にかけ千葉県白井市にて 3 R市民リーダー育成講座を実施し、活動の成果は 2023 年 10 月 22 日に白井総合公園で開催された「第 42 回白井市ふるさとまつり」を舞台に、新規リーダーの方々が参加する実践発表として行われました。



3 R市民リーダー育成講座 実践発表（白井市）

これまで協働してきた各地の 3 Rリーダーの皆さんを対象に、最新情報の提供や相互交流を行う「スキルアップ研修」を 2023 年 1 月 19 日にオンライン併用で開催しました。

さらに、自治体の清掃・リサイクル事業担当者との「容器包装の 3 R 情報交換会」を 2022 年 9 月 5 日に実会場とオンラインのハイブリッドで開催しました。オンラインでの参加が可能なため、首都圏以外の自治体からも参加いただきました。

2023 年度のトピックス

2023 年 7 月 21 日に自治体との「容器包装の 3 R 情報交換会」をハイブリッドで実施しました。また、新たな地域における「3 R市民リーダー育成プログラム」は、東京都文京区で 12 月 18 日に、3 Rリーダーの「スキルアップ研修」は、2024 年 2 月に開催の予定です。



実会場とオンラインとのハイブリッド開催による自治体担当者との情報交換会

(3)容器包装 3 R 推進フォーラム

延べ 3,300 名以上の市民、自治体、事業者との交流を実施

容器包装 3 R 推進フォーラムは、学識者の基調講演、容器包装 3 R や分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、市民・自治体・事業者がどのような連携を目指したらよいかを話し合い、方向性を共有することを目的としています。

第 1 次自主行動計画から通算で 17 回のフォーラムを全国各地で開催し、延べ 3,300 名以上の参加をいただき、交流・意見交換が持たれました（図表 7）。

図表 7 容器包装 3 R 推進フォーラムの開催状況

回・開催年月			開催地	テーマ	参加人数
第 1 次自主行動計画	第 1 回	2006 年 10 月	横浜市	消費者・自治体との「協働」による容器包装リサイクルのよりよい未来をめざして	241
	第 2 回	2007 年 9 月	神戸市	多様な連携と協働による社会的効率の高いシステムを考える	206
	第 3 回	2008 年 10 月	東京都港区	消費者、自治体、事業者の連携による容器包装 3 R の具体的取組をめざして	365
	第 4 回	2009 年 10 月	京都市	自治体、事業者、市民の連携による容器包装 3 R の取組推進へ	236
	第 5 回	2010 年 10 月	さいたま市	よりよい容器包装リサイクル制度を目指して	178
第 2 次自主行動計画	第 6 回	2011 年 10 月	名古屋市	容器包装リサイクル法の成果と課題	171
	第 7 回	2012 年 11 月	仙台市	容器包装 3 R の将来	122
	第 8 回	2014 年 2 月	川崎市	容器包装 3 R の先進事例	135
	第 9 回	2014 年 12 月	東京都品川区	容器包装 3 R のよりよい連携・共同に向けて	138
	第 10 回	2015 年 10 月	東京都北区	容器包装 3 R の持続的な推進のために	215
自主行動計画 2020	第 11 回	2016 年 11 月	東京都荒川区	容器包装の 3 R と資源循環	180
	第 12 回	2017 年 10 月	東京都中央区	持続可能な容器包装の 3 R を目指して	164
	第 13 回	2018 年 10 月	東京都杉並区	これからの資源循環と容器包装	161
	第 14 回	2020 年 1 月	東京都千代田区	プラスチック資源循環戦略と海洋ごみ問題～現状と今後の見通し	188
	第 15 回	2021 年 1 月	WEB 開催	持続可能な容器包装のための 3 R とライフスタイルを目指して	296
自主行動計画 2025	第 16 回	2022 年 1 月	WEB 開催	サステナブルな容器包装のための 3 R と消費行動	170
	第 17 回	2023 年 1 月	東京都墨田区	サーキュラーエコノミーの視点から見た容器包装 3 R	206
					計 3,372

第 17 回となる 2022 年度フォーラムは、2023 年 1 月 23 日に KFC Rooms（墨田区）で開催されました（WEB 配信とのハイブリット開催）。開催自治体（墨田区）のご挨拶、国から

の報告（経済産業省、環境省、農林水産省）、当連絡会の活動報告の後、基調講演では「サーキュラーエコノミーの視点から見た容器包装 3 R」をテーマに、叡啓大学特任教授・神戸大学名誉教授 石川雅紀氏にお話をいただきました。

また、事例報告では自治体（日野市）や事業者（東洋製罐グループホールディングス株式会社）、NPO（NPO 法人東京・多摩リサイクル市民連邦）から容器包装 3 Rに係る政策動向や取り組みをご報告いただき、基調講演者、事例報告者によるパネルディスカッションを行いました。



実会場・WEB のハイブリット開催
となった第 17 回フォーラム

2023 年度のトピックス

第 18 回フォーラムは 2024 年 2 月 2 日に「容器包装の 3R・資源循環 近未来の資源循環を考える」をテーマに港区・専売ホールで開催予定です。



2024 年 2 月開催予定の
第 18 回フォーラムチラシ

2.2 広報・啓発事業

(1) 展示会への出展・イベントへの協力

エコプロ展などで普及啓発活動を展開

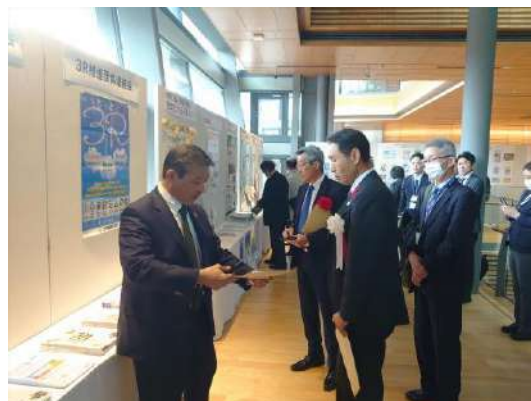
毎年度、日本最大級の環境イベントであるエコプロ展に出展しています。それぞれの団体がブース出展を行うほか、連絡会の共通ブースでは、連絡会としての取り組みのパネル展示等を行っています。

2023 年 10 月には環境省、地域自治体、3 R 活動推進フォーラムが主催する「3 R 推進全国大会」が 3 年ぶりに秋田市で開催され、当連絡会もブース出展を行いました。

その他、(公社) 全国都市清掃会議の 2023 年度春季総会（富山市）、秋季臨時総会（熊本市）に協力しています。



エコプロ 2022



3R 推進全国大会（秋田市）

(2)情報冊子の改訂・配布

情報冊子を改訂し、容器包装 3 R の最新情報を掲載

3 R 市民リーダーとの共同作業の成果である小冊子「リサイクルの基本」は、容器包装のリサイクルについて全ての容器包装を網羅した分かりやすい情報・啓発冊子としてご好評をいただいています。本冊子ご希望の自治体、市民団体等には無料で配布しており、これまでの配布部数は1万5千部以上となっています。2023年7月に Ver.5 として改訂しました。

また、当連絡会の紹介と容器包装 3 R の基礎情報を掲載した啓発パンフレット「未来へとつながる 3 R 社会をめざして」は 2022 年度に改訂しました。

両冊子とも、本連絡会ホームページよりダウンロード可能です。



リサイクルの基本



未来へとつながる 3 R 社会を目指して

(3)ホームページの公開等

ホームページやポスターを通じた情報発信

当連絡会の活動、フォローアップ報告などの情報を掲載するホームページは 2017 年度にサイトリニューアルを行いました。また、連絡会としての共通ポスターを作製し、各団体を通じて自治体や消費者団体に配布しています。



3 R 推進団体連絡会ホームページ



共通ポスター

II 団体別 2022 年度フォローアップ結果

ガラスびん 3 R 促進協議会	18
P E T ボトルリサイクル推進協議会	24
紙製容器包装リサイクル推進協議会	30
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	35
スチール缶リサイクル協会	41
アルミ缶リサイクル協会	46
飲料用紙容器リサイクル協議会	53
段ボールリサイクル協議会	61

7. 飲料用紙容器リサイクル協議会

飲料用 紙容器リサイクル協議会は、全国牛乳容器環境協議会(容環協)、印刷工業会液体カートン部会、一般社団法人全国清涼飲料連合会、一般社団法人全国発酵乳酸菌飲料協会、一般社団法人日本果汁協会、酒類紙製容器包装リサイクル連絡会の 6 団体で構成し、飲料用紙パック(アルミ付を除く)の 3 R を推進しています。なお主体間連携等の活動は主に容環協が担っています。

牛乳パック リデュースの取り組み

紙パックのリデュースは、1987 年から 2002 年の間に既に約 5%の軽量化を実現しています。

1000ml 容器については品質への影響が危惧されることから、さらなる軽量化は難しいと判断し、「500ml の牛乳パック」に限定した軽量化に取り組んでいます。

中身飲料の品質に影響を与えず、運搬時にも耐えられる強度で安定した製造ができる紙パックとして、2011 年 9 月から軽量原紙の使用を進めています。

2022 年度は 2005 年度比で、2.7%の軽量化（原紙仕様レベル）となりました。2019 年度から 2020 年度にかけて 500ml 容器販売量の減少が影響し、一旦は数値を下げたものの、その後坪量の小さな軽量原紙を使用するメーカーが増えたことなどによりリデュース率が増加したと考えられます。

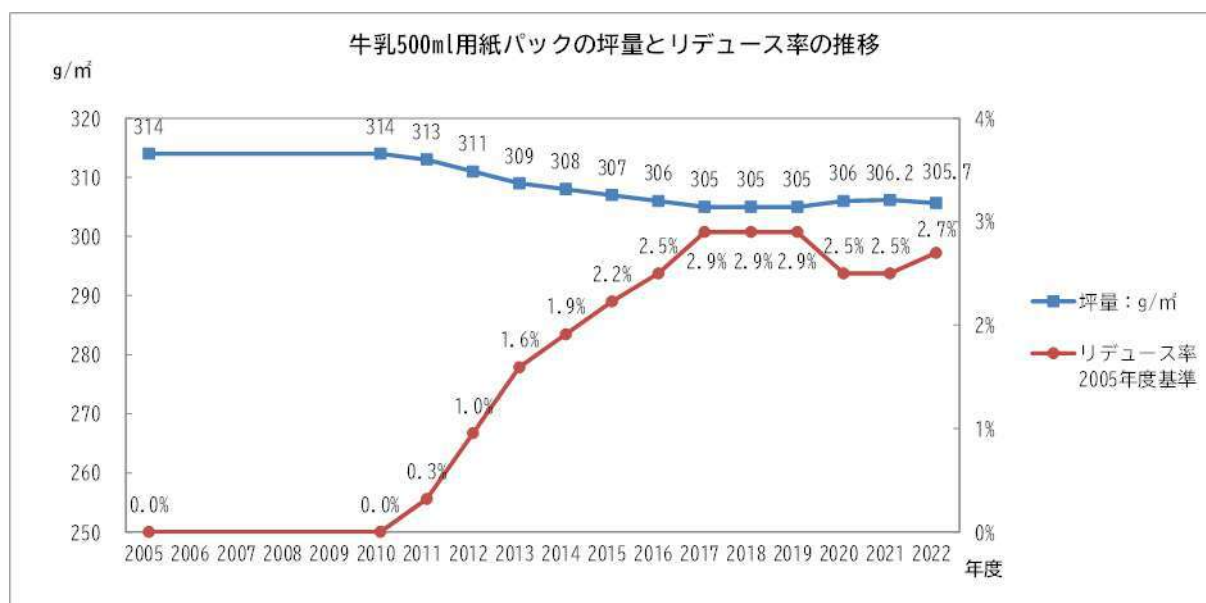
※なお、2021 年度実績より坪量の値を小数点以下第一位まで記載しています。

[紙パックのリデュースについて]

- ・ 1987 年～2002 年：約 5% 軽量化を実現
対象：1000ml 紙パック・500ml 紙パック

[500ml 牛乳パックのリデュースについて]

- ・ 2011 年 9 月：500ml 牛乳パックのリデュース取り組み開始



紙パックリサイクルの取り組み

2025 年度を到達年度とした行動計画の基本として、容環協は回収率 50%を目標とする諸活動を通して、持続可能な社会作りに貢献するため、以下の 5 本の柱を定めています。

- ① 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション
目的：ステークホルダーの意見を聞くことなどを通し、正しく実態を把握
- ② 回収率向上のための啓発
目的：市民・企業等へ紙パックの特性を正しく伝え、リサイクル行動へつなげる
- ③ 紙パックの回収・再生インフラの整備支援
目的：日本全国どこでも誰でもが紙パックをリサイクルできるルートの整備を支援する
- ④ 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上
目的：持続可能な回収力向上のため、子どもたちの紙パックへの理解を深める
- ⑤ 活動への理解促進、活動の公表と評価
目的：活動をレビューするとともに、公表しステークホルダーの共感を得る

2022 年度の回収率は前年度とほぼ同レベルの 38.7%でした。ここ数年の低下傾向には歯止めがかかったものの、「回収率 50%以上」には及ばない状況となりました。

回収率の分母となる原紙使用量や出荷量が減少した反面、新型コロナウイルス感染症の影響によりスーパーマーケットや生活協同組合の店頭回収ボックスが閉鎖されたことや、市区町村登録団体による集団回収の実施回数や団体数が減少したことなどにより分子となる回収量も減少しています。

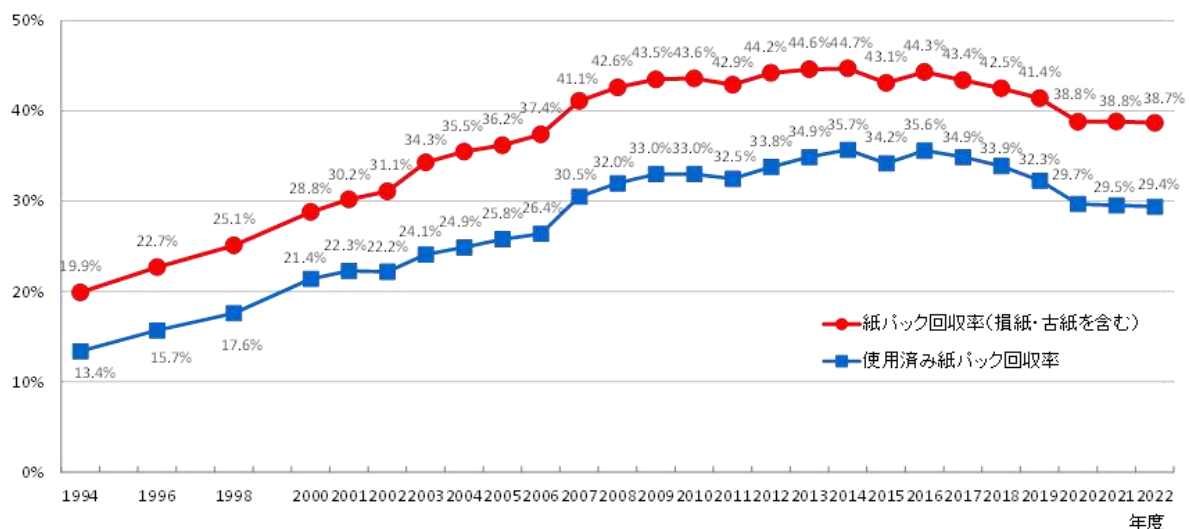
なお、雑誌の間に紙パックが挟まれた状態で回収されているなど、「紙パック」としてではなくそれ以外の古紙として回収されている中にも紙パックが混入しているケースがあり、それらの紙パックの一部は計量されないまま紙パックとしてリサイクルされています。

こうした計量されずにリサイクルされている紙パックの推計量を含めると、紙パック回収率は 39.6%（使用済み紙パック回収率は 30.5%）になります。

今後は上記①～⑤の行動計画をもとに従来からの取り組みに一層注力するとともに、新規の活動を模索・試行しつつ回収率を向上させ、2025 年度の目標達成に向け取り組んでまいります。

〈 紙パック回収率 推移 〉

「紙パック回収率」は、家庭、学校、店舗、事業所などで発生する「使用済み紙パック」と工場内で発生する「損紙」（紙パック工場や飲料充填工場でのロスなど）・「古紙」（充填後に廃棄された紙パック）を合算した回収率です。



紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

①紙パックリサイクル促進 意見交換会

毎年度末に活動実績の報告と紙パックリサイクル促進を目的とした意見交換会を開催しています。消費者、市民団体、国（環境省・経産省・農水省）、自治体、製造・販売・回収・再生事業者・その他サプライチェーン関係者など、各方面のステークホルダーからの意見を翌年度以降の事業活動に反映させています。

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オンラインでの実施となりましたが、全国から約 70 名の参加があり、紙パックリサイクルにおける課題の共有と意見交換を実施しました。

また、特定のエリアをターゲットとしたステークホルダーとの地域意見交換会も実施しています。2022 年度は千葉県内のステークホルダーを対象に意見交換を開催しました。



紙パックリサイクル促進 意見交換会
(2023 年 2 月 28 日 オンライン)



紙パックリサイクル促進 地域会議 in 千葉
(2023 年 2 月 10 日 ハイブリッド)

②古紙問屋や再生紙メーカーとのコミュニケーション

古紙リサイクルにおいて重要なステークホルダーである古紙問屋や再生紙メーカーの見学会やヒアリング、意見交換会を実施しコミュニケーションを深めています。



古紙問屋への取材とヒアリング



再生紙メーカー見学会

③様々なイベント等への参画

東京ビッグサイトで行われる「エコプロ」をはじめ、自治体や諸団体、会員企業が主催する環境イベント等に積極的に出展・支援を実施しています。

紙パックの原料となる木材が成長する森林の管理の方法や、紙パック分別排出のポイントなど、紙パックリサイクルについて正しく理解いただくための情報発信とコミュニケーションを行うとともに、展示パネルの貸与や、啓発冊子類・リサイクルトイレットペーパーの提供等のイベント支援も実施しています。



エコプロ2022の容環境ブース（東京ビッグサイト）



CHEER FAMILY☆Festa☆(柏原市)



ちよだ環境まつり(千代田区)



西武グリーンマルシェ(練馬区)



イベント支援
グッズの一例

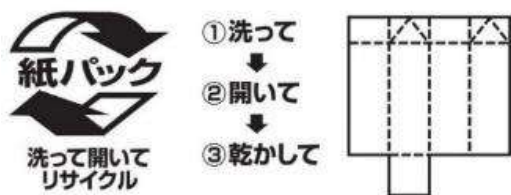
回収率向上のための啓発

①紙パックマークや環境メッセージの浸透

飲料用紙容器の識別マークである「紙パックマーク」と、紙パックのリサイクルルールなどを示した「環境メッセージ」を紙パックの広告欄に表示する取組みを行っています。

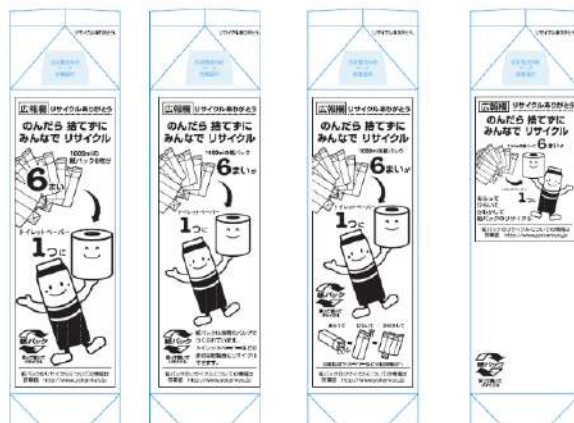
2020年度より従来デザインに加え「1000mlの紙パック6枚でトイレットペーパー1個にリサイクル」されることを訴求したデザインを追加しました。

「環境メッセージ」は容環協ホームページにも掲載しています。



紙パックマーク[標語・展開図付] (上)

1000ml の紙パック 6 枚でトイレトペーパー
1 個を訴求するデザイン (右)



②ホームページのスマートフォン対応

従来の容環協ホームページはPCでのアクセスを前提としたページ構成となっていたましたが、接続機器の画面サイズに応じてページレイアウトが変わる「レスポンシブデザイン」に変更スマートフォンやタブレットでも見やすい仕様に変更しています。

ページのデザインもリニューアルし、属性別の入口を設けることにより素早く目的のコンテンツにたどり着ける工夫もおこない、訪問者が見やすく、わかりやすいよう工夫しています。



PC の表示 (左) とスマートフォンの表示 (右)

③インターネット啓発記事の発信

従来の啓発において、やや手薄であった 20 代～30 代向けの情報発信手段として、インターネットメディアによる記事の発信を実施しています。

S N S 配信サイトを通じこれまで7回の配信を実施し、累計 200 万件のアクセスがありました。読者からの「つぶやき機能」による反応もあることから、大規模かつ有効な啓発手段として今後も活用していきます。



④紙パック回収ボックスの提供

2022年度までに累計で25,000個以上の回収ボックスを無償提供しており、今年度も引き続きいろいろな回収拠点に提供していきます。

これまで学校や公民館、一般企業、自治体の回収拠点等を中心に設置いただいておりますが、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県、徳島県の一部地域では地元自治体や商工会の協力により、コンビニエンスストアや飲食店の店頭にも設置いただいております。市民にとって身近な分別回収拠点となっています。

なお、回収ボックスは「紙パック回収の目的であれば無償で提供」しておりますので、お気軽にお申し込みください。



申込書（HPに掲載）



回収ボックス

回収ボックスのお申し込みは、以下の事項を記入しメール、またはFAXで下記までお申し込みください。

FAX : 03-5629-4136 メール : otoiawase@spin-inc.co.jp

① 学校名・団体名

② ご担当者

③ 連絡先（電話、FAX、メールアドレス）

※容環境 HP (<https://www.yokankyo.jp/>) にも申込書が掲載されています

⑤市町村の指定ごみ袋へ広告掲載

2019年度より市・町村の指定ごみ袋への啓発広告掲載を実施しています。

可燃ごみ袋に「紙パックは捨てずにリサイクル」というメッセージを掲載し、紙パックリサイクルに対する啓発を広く行うとともに、廃棄されることを防止する効果も狙っています。

2023年度には新たに逗子市、泉佐野市のごみ袋にも採用となり、約100万人（広告掲載5市の人口合計）に啓発を実施しています。



八王子市の可燃ごみ袋



羽村市のデザイン



逗子市(新規採用)のデザイン

紙パックの回収・再生インフラの整備支援

市区町村別の牛乳パックの回収区分や牛乳パックを古紙回収する業者の情報を調査し、地域ごとの回収インフラの差を少なくすることを目指した活動を展開しています。

次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

①牛乳パックリサイクル出前授業

資源循環の大切さを理解していただくため、学乳パックのリサイクルの普及促進のための活動を行っています。2022 年度も川崎市の市民団体（3 R推進プロジェクト、グリーンコンシューマーかわさき）および川崎市環境局と協力し、川崎市内の小中学校で出前授業を実施しました。

資源循環だけでなく SDGs や地球温暖化等の環境問題を広い視点で話し合いながら、このような課題に対し「自分たちは何ができるかを考える」というスタイルで行っています。



川崎市の小学校での出前授業

②リサイクル講習会、ワークショップ

コロナ禍でしばらく中断していたリサイクル講習会、ワークショップを順次再開しています。

子供向けに紙パックのパルプを使った「手すきはがきづくり」や「紙パック工作」、「牛乳パックの手開き」等を通じ、子供たちがリサイクルをはじめとする環境問題について考えるきっかけを与えることを目的としています。



リサイクル講習会(東京都中央区)

③「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」への協賛

紙パックを使ったものづくりを通して、未来を担う子どもたちの気付きや理解に貢献したいとの思いから、環境学習支援の一環として本コンクールに協賛しています。

2023 年度も全国に 19,000 校ある小学校全校に案内を送付し、約 3,600 作品の応募をがありました。

上位入賞 7 作品については、児童と家族をお招きし、都内で表彰式を行う予定です。



最終審査の様子 (2023 年 11 月)



2022 年度の表彰式

④啓発パネル、パンフレット類の改訂

これまで使用していた啓発パネルやパンフレット類の内容を見直し、随時改訂を行っています。
2022年度は啓発パネルおよび大人向け啓発冊子を改訂しました。



⑤学乳パックの回収率向上を目指して

学校給食用牛乳の飲用後のパック（学乳パック）のリサイクルを促進するため、リーフレットを作成しました。学校での紙パックリサイクルに向けた「手開き」「洗浄」「保管」などについて、実際にリサイクルを実施している学校の具体的事例を示したQ&Aを記載した分かりやすい資料となっています。



活動への理解促進、活動の公表と評価

①年次報告書

容環協では2004年から毎年、年次報告書を作成しています。

1年間の飲料用紙容器リサイクルに関連する活動をまとめるとともに、さまざまなステークホルダーの取組みを紹介しています。

年次報告書はステークホルダーの方々に広く配布しています。また、容環境ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

さらに詳しい情報は
全国牛乳容器環境協議会ホームページ
<https://www.yokankyo.jp/>



容器包装 3 R 推進のための自主行動計画 2 0 2 5

2022年度フォローアップ報告（2022年度実績）

2023 年 12 月

3 R 推進団体連絡会

ガラスびん 3 R 促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

作成協力：（有）循環資源・環境ビジョン研究所

2024年4月1日

[illegible]